

令和4年度

# 北海道立旭川美術館

ANNUAL REPORT OF HOKKAIDO ASAHIKAWA MUSEUM OF ART

April, 2022 – March, 2023

## 年報

# 目次

1 活動方針	1
2 令和4年度の活動概要	2
3 事業日誌	3
4 展覧会事業	
特別展・所蔵品展一覧	4
4-1 特別展	
美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方	5
旭川の美術 100年 第一部	12
世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち	23
モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川	35
4-2 所蔵品展	
「木の造形」クロニクル	45
旭川の美術 100年 第二部	45
こころ育む学び舎ー北海道教育大学旭川校ー	46
旭川現代アート事始め	47
5 教育普及事業	
(1) ワークショップ等	53
(2) 連携事業	54
(3) ボランティア活動	55
(4) 協力事業	55
6 美術作品の収集	56
作品目録	58
7 美術作品の修復・貸出	
(1) 美術作品の修復	62
(2) 美術作品の貸出	62
8 資料・情報	63
9 利用者数一覧等	
(1) 令和4年度 観覧者数一覧	66
(2) 令和4年度 教育普及事業実施状況・利用者数一覧	67
(3) 令和4年度 予算・名簿	70
(4) 沿革	71
(5) 建築設備概要	72
(6) 利用案内	73

# 1 活動方針

道北地域における文化活動の拠点として、幅広く美術文化を紹介・普及することにより、地域文化に潤いと深みをもたらし、文化創造への活力を高める。

## A すぐれた作品の収集と保管

旭川を中心とした道北地域にゆかりのあるすぐれた作品及び木を素材とした造形作品を系統的に収集、保存する。

## B 多彩で特色ある展示活動の充実

当館の所蔵品及び国内外のすぐれた作品をさまざまな角度から紹介する展覧会を企画・実施する。また、他の道立美術館との連携のもとに、その所蔵品を紹介する。

## C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

講演会、講座、解説、教員のための鑑賞研修、子ども向け事業等の教育普及活動及び美術に関する情報提供等の事業を推進し、地域の美術文化の振興を図る。

## D 活動の基礎となる調査研究の推進

主として「道北の美術」及び「木の造形作品」についての調査研究を行う。また、美術館活動についての研究を行う。

## E 地域文化の振興

地域の他の美術館、博物館等との連携を図り、地域文化の活性化に努める。

## F 良好な滞在環境の提供

美術鑑賞にふさわしく落ち着いた文化的環境を維持・提供する。

## 2 令和4年度の活動概要

### ■旭川美術の一端を振り返る

開館40周年を迎えた本年度、展覧会では北海道新聞社や旭川市民実行委員会との共催により国内外の美術を幅広く取りあげる特別展のほか、両展示室にわたる「旭川の美術100年」展（7月9日～9月4日）から、第1展示室での「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展（12月17日～3月12日）、第2展示室での「旭川現代アート事始め」展（12月17日～3月12日）まで、当館コレクションを出品作品の中心に据えながら、旭川美術の歴史の一端を振り返る特別展、所蔵品展を、年間を通じて開催。当館の「道北の美術」コレクションの現況を示す機会となった。

### ■5年振りの作品購入と伝統木工芸のコレクション

作品収集では、人間国宝である村山明と須田賢司、また賢司の父・須田桑翠が手がけた木工芸作品計4点を購入により収蔵。平成29年度（2017年度）以来、5年振りとなる作品購入が実現した。あわせて、当館ボランティア常磐会や作家、コレクターからの受贈によっても、須田賢司、須田桑翠の作品が収蔵された。当館が所蔵する「木の造形」作品のなかでも、黒田辰秋や中臺瑞真など、日本の伝統技法を駆使した伝統木工芸の系譜に連なる作家のコレクション充実に資するものとなった。今後もコレクションを生かした展示等の企画を通じ、木工芸の継続的な紹介に努めたい。

### ■コロナ禍を越えて

令和元年度（2019年度）に始まったコロナ禍は、徐々に収束へ向かう兆しを見せてきた。当館教育普及事業の実施スタイルにも変化が見られた。「夏休み工作アトリエ『とっておき♪ミニBOOK 旭川の美術100年』」ではロビーに台紙を配架し、参加者各々が自宅で工作を行う持ち帰り形式としたが、「冬のウッディ★工作アトリエ2023『親子で木のおもちゃづくり』」では参加者全員が当館へ集合し、講師から直接、指導を受けながら木工作に取り組んだ。

また、平成24年度（2012年度）より道教委の主導で開催してきた「出張アート教室」に代わり、本年度は「オンラインアート教室」が試行された。当館では道北地域3校46名と授業を実施。時間を共有している実感を持ちながら授業を行うべく、先生や子どもたちとの双方向的なやりとりを重視し、開館時間中のロビー中継やクイズ、作品制作過程の実演を採り入れるなど、対面に代わるコミュニケーションの工夫を試みた。オンライン化の加速し続ける時代、コロナ禍が拍車をかけるかたちで顕わになった〈対面〉と〈共有〉のはざまに、未来の美術館像を重ね見る一年となった。

### 3 事業日誌

月日	事業内容
4.23(土)～6.26(日)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展(第1展示室)
4.23(土)～6.26(日)	『木の造形』クロニクル」展(第2展示室)
4.23(土)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 こどもワークショップ「ゆらゆら遊ぼう！ヤジロペー作り」(講堂)
4.24(日)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 絵本のよみきかせ会(講堂)
4.29(金・祝)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 絵本のよみきかせ会(講堂)
5.21(土)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
5.26(木)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 絵本のよみきかせ会(講堂)
5.29(日)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 こどもワークショップ「ちびっこデザイナーのこだわり絵本バッグ」～色の世界～(講堂)
6.4(土)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
6.5(日)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
6.18(土)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 教員のための鑑賞研修(講堂)
6.21(火)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 絵本のよみきかせ会(講堂)
7.9(土)～9.4(日)	「旭川の美術100年 第一部」展(第1展示室)
7.9(土)～9.4(日)	「旭川の美術100年 第二部」展(第2展示室)
7.9(土)	「旭川の美術100年」展 講演会「旭川の作家たち-地域美術の魅力」(講堂)
7.22(金)	「旭川の美術100年」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
7.24(日)	「旭川の美術100年」展 教員のための鑑賞研修(講堂)
7.24(日)	「旭川の美術100年」展 ギャラリートーク①(第1展示室)
7.30(土)	「旭川の美術100年」展 ギャラリートーク②(第1展示室、第2展示室)
8.3(土)～8.31(水)	夏休み工作アトリエ2022「とっておき♪ミニBOOK『旭川の美術100年』」(ロビー)
8.27(土)	「旭川の美術100年」展 講演会「彫刻の街・旭川—その歩みと現況について」(講堂)
9.17(土)～11.27(日)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」(第1展示室)
9.17(土)～11.27(日)	「こころ育む学び舎—北海道教育大学旭川校—」展(第2展示室)
9.23(金・祝)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
10.1(土)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 教員のための鑑賞研修(講堂)
10.7(金)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 ギャラリートーク(第1展示室)
10.8(土)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 講演会「北斎 波瀾万丈90年の生涯」(講堂)
10.14(金)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 マダムケロコと学芸員のギャラリートーク(第1展示室)
10.15(土)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
10.21(金)	オンラインアート教室「旭美探訪」(ロビー、第2展示室ほか)
10.22(土)	「こころ育む学び舎—北海道教育大学旭川校—」展 講演会「北海道教育大学旭川校の歩みとその学び舎」(講堂)
10.27(木)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 マダムケロコと学芸員のギャラリートーク(第1展示室)
11.2(水)	オンラインアート教室「旭美探訪」(ロビー、第2展示室ほか)
11.4(金)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
11.5(土)	「こころ育む学び舎—北海道教育大学旭川校—」展 ギャラリートーク①(第2展示室)
11.6(日)	「こころ育む学び舎—北海道教育大学旭川校—」展 ギャラリートーク②(第2展示室)
11.10(木)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 マダムケロコと学芸員のギャラリートーク(第1展示室)
11.26(土)	「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展一師とその弟子たち—」 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
12.17(土)～3.12(日)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展(第1展示室)
12.17(土)～3.12(日)	「旭川現代アート事始め」展(第2展示室)
12.17(土)	コンサート「バラエティ豊かな打楽器が描く音の世界」(ロビー)
12.22(木)	オンラインアート教室「旭美探訪」(ロビー、第2展示室ほか)
1.7(土)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展 教員のための鑑賞研修(講堂)
1.7(土)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)
1.14(土)、1.15(日)	冬のウッドイ★工作アトリエ2023 「親子で木のおもちゃづくり」(講堂、第1展示室、第2展示室)
1.21(土)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展 講演会「工芸・木工芸 黒田辰秋から現代まで」(講堂)
2.4(土)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展 講演会「カクテル都市 巴りの狂宴」(講堂)
2.18(土)	「モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川」展 30分でわかる！学芸員の見どころ解説(講堂)

## 4 展覧会事業

### ■特別展・所蔵品展一覧

	展覧会名	開催期間	開催日数	主催	会場
特別展	257 開館40周年記念 美術館に行こう！ディック・ブルーナ に学ぶモダン・アートの楽しみ方	4月23日(土)～ 6月26日(日)	56日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社 同展実行委員会	第1展示室
	258 開館40周年記念 旭川の美術100年 第一部	7月9日(土) ～9月4日(日)	50日間	北海道立旭川美術館	第1展示室
	259 開館40周年記念 世界が絶賛した浮世絵師 北斎展 一師とその弟子たち	9月17日(土)～ 11月27日(日)	63日間	北海道立旭川美術館 旭川市民実行委員会	第1展示室
	260 開館40周年記念 モダンの芸術 100年前のヨーロッ パ、日本、旭川	12月17日(土) ～3月12日(日)	69日間	北海道立旭川美術館	第1展示室

所蔵品展	93 開館40周年記念 「木の造形」クロニクル	4月23日(土)～ 6月26日(日)	56日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	94 開館40周年記念 旭川の美術100年 第二部	7月9日(土) ～9月4日(日)	50日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	95 開館40周年記念 こころ育む学び舎 —北海道教育大学旭川校—	9月17日(土)～ 11月27日(日)	63日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	96 開館40周年記念 旭川現代アート事始め	12月17日(土) ～3月12日(日)	69日間	北海道立旭川美術館	第2展示室

## 4-1 特別展

開館 40 周年記念 北海道新聞創刊 80 周年記念

### 美術館に行こう！

ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

Let's go to Museum!

会 期：4月23日(土)～6月26日(日)

主 催：北海道立旭川美術館、北海道新聞社、「美術館に行こう！展」実行委員会

特別協力：ディック・ブルーナ・ジャパン/Mercis bv

協 力：クツワ、福音館書店

企画協力：キュレイターズ

後 援：旭川市、旭川市教育委員会

本展は、ミッフィー（うさこちゃん）の生みの親で絵本作家・グラフィックデザイナーであるディック・ブルーナの『うさこちゃん びじゅつかんへいく』をガイドとし、大人から子供まで幅広い年齢層の方がモダン・アートに親しむことを目的として開催。絵本の内容に沿って北海道立近代美術館、当館の所蔵品を紹介することで、鑑賞者がより親しみをもち美術に触れられるよう、作品を多角的な視点で鑑賞するきっかけを提示した。また、ブルーナが生み出した独自の技法とスタイルに焦点をあて、そのオリジナリティを確立させた背景にある彼のモダン・アートに対する探求心を明らかにするとともに、膨大なデザイン・ワークから彼の制作の秘密に迫った。展示室内には、ぬりえを配布するワークショップコーナーを併設し、ブルーナの魅力をさらに実感することができる取り組みを行った。また、講師を招いてのワークショップや絵本の読み聞かせ会など多数の関連事業を実施し好評を博した。

本展は令和3年度の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となっていた。観覧者数は19,071名であった。

#### ■関連事業

〔こども工作ワークショップ「ゆらゆら遊ぼう！ヤジロペー作り」〕

4月23日(土) ①午前10時30分～、②午後1時～（各回約1時間）

講 師：八重樫 良二氏（北海道教育大学旭川校特任教授）

対 象：小学生（各回定員10名）

会 場：講堂（事前募集制、聴講無料）

参加人数：計13名

[図書館×美術館「絵本のよみきかせ会」]

読み聞かせ：旭川市図書館子ども読書活動推進ボランティアネットワーク

会 場：講堂（事前募集制、聴講無料）



4月24日（日） ①午後2時～、②午後3時～（各回約20分）

参加人数：計27名



4月29日（金・祝） ①午後2時～、②午後3時～（各回約20分）

参加人数：計28名



5月26日（木） ①午後2時～、②午後3時～（各回約20分）

参加人数：計29名



6月21日（火） ①午後2時～、②午後3時～（各回約20分）

参加人数：計21名

[こども工作ワークショップ「ちびっこデザイナーのこだわり絵本バッグ～色の世界～」]

5月29日（日） ①午前9時45分～、②午前10時15分～、③午前10時45分～、④午前11時15分～、  
⑤午前11時45分～、⑥午後12時15分～（各回約20分）

講 師：旭川大学短期大学部椎名ゼミ

対 象：3歳～小学生（各回定員10名）

会 場：講堂（事前募集制、参加無料）

参加人数：計61名

[30分でわかる！学芸員の見どころ解説]

講 師：津田 しおり（学芸員）

会 場：講堂（聴講無料）



5月21日（土） 午前11時～、午後2時～（各回約30分）

参加人数：計18名



6月4日（土） 午前11時～、午後2時～（各回約30分）

参加人数：計17名



6月5日（日） 午前11時～、午後2時～（各回約30分）



参加人数：計 14 名

#### [教員のための鑑賞研修]

6月18日(土) 午前11時～(約60分)

講師：津田 しおり (学芸員)

会場：講堂、第1展示室(事前募集制、参加無料)

参加人数：8名

#### [オリエンテーション]

講師：津田 しおり (学芸員)

会場：講堂

実施回数：5回

参加人数：88名

(希望団体対象の解説、予約制、参加無料)

#### ■主な新聞記事等

北海道新聞 取材記事：4/19, 4/23, 4/23(夕), 4/24(全道版), 4/24, 5/7, 5/13, 5/27, 6/8, 連載：5/25, 5/26, 5/27, 5/28, 5/31 広告：3/1(夕), 3/2, 3/4, 3/5, 3/6, 3/7, 3/7(夕), 3/8, 3/9, 3/10, 3/11(ななかまど), 3/11, 3/13, 3/19(まなぶん), 3/19, 3/20, 3/22, 3/22(夕), 3/23, 3/24, 3/25, 3/26, 3/28, 3/29, 3/29(夕), 3/30, 3/31, 4/3, 4/4, 4/5, 4/5(夕), 4/6, 4/7, 4/8, 4/8(ななかまど), 4/9, 4/9(夕), 4/10, 4/12, 4/14, 4/15(ななかまど), 4/16, 4/17, 4/18, 4/18(夕), 4/19, 4/20, 4/21, 4/22(ななかまど), 4/23, 4/23(夕), 4/24, 4/24(夕), 4/25, 4/25(夕), 4/29, 4/29(ななかまど), 4/30, 4/30(まなぶん), 5/1, 5/2, 5/3, 5/4, 5/5, 5/6, 5/8, 5/10, 5/11, 5/12, 5/13, 5/14, 5/14(まなぶん), 5/16, 5/17, 5/18, 5/18(夕), 5/19, 5/20, 5/20(夕), 5/21, 5/21(まなぶん), 5/23, 5/24, 5/24(夕), 5/25, 5/26, 5/27, 5/27(ななかまど), 5/28, 5/28(まなぶん), 5/29, 5/30, 5/31, 6/1, 6/2, 6/3, 6/4, 6/5, 6/6, 6/7, 6/9, 6/10, 6/10(ななかまど), 6/11, 6/11(こども新聞), 6/12, 6/16, 6/18, 6/19, 6/20, 6/21, 6/22, 6/23

北海道通信 4/13, 4/28, 5/31, 6/30

ライナー 5/6

#### ■広報印刷物

ポスター：B2 縦、マットコート 135 kg、片面カラー(特色)、1,560枚

チラシ：A4 縦、マットコート 110 kg、両面カラー(特色)、51,100枚

観覧券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券等) 縦 140×横 60mm、マットコート 90 kg、片面カラー、64,510枚

デザイン：前内 千景(アトリエペチカ)

製作：アイワード

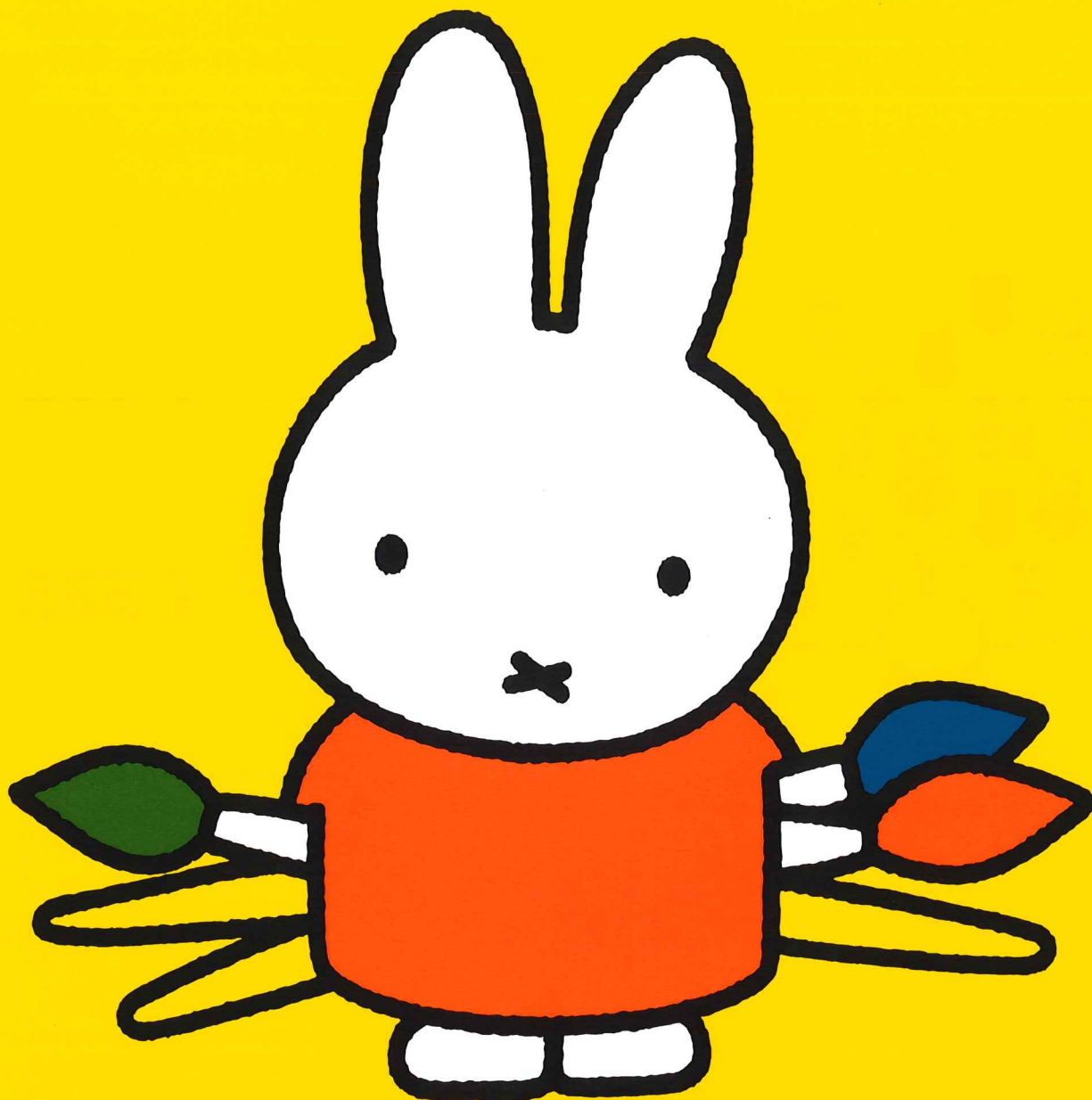
## 美術館に行こう！ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先
<ミッフィーがいちばんはじめにみたのは「がくぶちの なかに りんごが ひとつ。」>						
1	俣野 第四郎	卓上静物図	1923(大正12)	油彩、キャンバス	45.0×52.0	北海道立旭川美術館
2	ルネ・マグリット	『マグリットの落とし子たち』魅せられた領域：海辺にはリンゴの顔をした二人の訪問者がいる…	1968	リトグラフ、紙	27.5×48.5	北海道立近代美術館
3	山口 健智	静物一切れた電球	1965(昭和40)	油彩、キャンバス	25.4×33.3	北海道立旭川美術館
4	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、パステル、塩化ビニール板	58.5×88.5	北海道立旭川美術館
<動くアート「うえから さがっているの あれは もびーると いうものだよ。」>						
5	早見 賢二	キレンジャク・モビール	不詳	カバ、クルミ、ケヤキ		北海道立旭川美術館
6	八重樫 良二	モビール	2022(令和4)	紙		作家蔵
<石で作ったくまさん「あっ、くまだ」「これは いしで できているんだよ。」>						
7	大門 巖	ふわふわ	1983(昭和58)	クルミ、カバ、麻	64.0×64.0×12.0	北海道立旭川美術館
8	寺田 榮	石走る(いはばしる)	2003(平成15)	白御影石	37.0×30.0×60.0	北海道立旭川美術館
<あおいおひさま「あおい おひさまに きいろい おひさま。」>						
9	木田 金次郎	青い太陽	1955(昭和30)頃	油彩、キャンバス	60.6×72.8	北海道立近代美術館
10	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』扉絵	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸54.1×75.9	北海道立近代美術館
11	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』泉のほとりのダフニスとクロエ	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸54.1×75.9	北海道立近代美術館
12	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』真昼、夏	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸53.9×75.9	北海道立近代美術館
13	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』クロエ	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸53.9×75.9	北海道立近代美術館
14	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』フィレータースの教えたこと	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸54.0×76.4	北海道立近代美術館
15	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』死んだイルカと300エキュ	制作：1957-60 刊行：1961	リトグラフ、紙	紙寸54.0×76.4	北海道立近代美術館
16	遠藤 享	SPACE & SPACE<GRAPE II>	1985(昭和60)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
17	遠藤 享	SPACE & SPACE<BOTTLE>	1979(昭和54)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
18	遠藤 享	SPACE & SPACE<GLASS>	1980(昭和55)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
19	遠藤 享	SPACE & SPACE<COMPASSES>	1981(昭和56)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
20	遠藤 享	SPACE & SPACE<CAN AND APPLE>	1982(昭和57)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
21	遠藤 享	SPACE & SPACE<BOTTLE III>	1982(昭和57)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
22	遠藤 享	SPACE & SPACE<EGG AND EYE>	1983(昭和58)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
23	遠藤 享	SPACE & SPACE<GLASS III>	1984(昭和59)	オフセット・リトグラフ、紙	45.0×45.0	北海道立旭川美術館
<せんがいっぱい「しまの もようが ほんとうに きれい。」>						
24	因藤 壽	作品 78.3.9.A	1978.3.9～ 79.9.21 (昭和53～54)	油彩、キャンバス、複合ベース、パネル	116.6×90.9	北海道立旭川美術館
25	難波田 龍起	生の交響詩	1992(平成4)	油彩、キャンバス	112.5×145.0	北海道立旭川美術館
26	難波田 龍起	風景	1956(昭和31)	油彩、キャンバス	50.0×60.5	北海道立旭川美術館

<あおいミッフィー? 「わたしはほんもので このうさぎみたいに あおくないもの。」>

27	林 範親	3-F 北通路・2157	1992(平成4)	スプルーース、ヒバ、アクリル絵具	60.0×27.0×55.0	北海道立旭川美術館
28	林 範親	B-1 南通路・3387	1992(平成4)	スプルーース、ヒバ、アクリル絵具	60.0×27.0×60.0	北海道立旭川美術館
29	末武 英一	標本箱シリーズ 「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、パステル、塩化ビニール板	58.5×88.5	北海道立旭川美術館
30	ルネ・マグリット	『マグリットの落とし子たち』自由を奪われた美女	1968	リトグラフ、紙	30.5×45.5	北海道立近代美術館
<いろがみをはる「たくさんの うつくしい いろ。まるで はさみで きりぬいたよう。」>						
31	ヴィクトル・ヴァザルリ	C-LAPIDAIRE-C	1962	コラージュ、紙	16.5×16.5	北海道立近代美術館
32	アンリ・マティス	『アポリネール』	制作, 刊行: 1952	アクアチント、紙	32.8×24.9	北海道立近代美術館
33	板津 邦夫	コスモス	2004(平成16)	木版、紙	29.5×21.5	北海道立旭川美術館
34	根守 悦夫	窓	1973(昭和48)	シルクスクリーン、紙	51.0×36.0	北海道立旭川美術館

---



🐰 **美術館に行こう!** 🐰

ディック・ブルーナに学ぶ **モダン・アートの楽しみ方**

2022年

**4.23** 土 → **6.26** 日

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日：月曜日

観覧料：一般 1,100(900)円、高大生 600(400)円

中学生 300(200)円、小学生以下無料(要保護者同伴)

\* ( )内は前売り、10名以上の団体料金。

\* 障害者手帳をお持ちの方等は無料。

\* リピーター割引、旭川リンクリンクミュージアムによる割引など、お得な割引料金もあります。詳しくは旭川美術館までお問い合わせください。



展覧会公式ホームページ

<http://event.hokkaido-np.co.jp/miffy/>

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 Tel:0166-25-2577

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>

主催 ■ 北海道立旭川美術館、北海道新聞社、「美術館に行こう!展」実行委員会

特別協力 ■ ディック・ブルーナ・ジャパン/Mercis bv

協力 ■ クツワ、福音館書店

企画協力 ■ キュレイターズ 後援 ■ 旭川市、旭川市教育委員会

北海道新聞

創刊

80周年

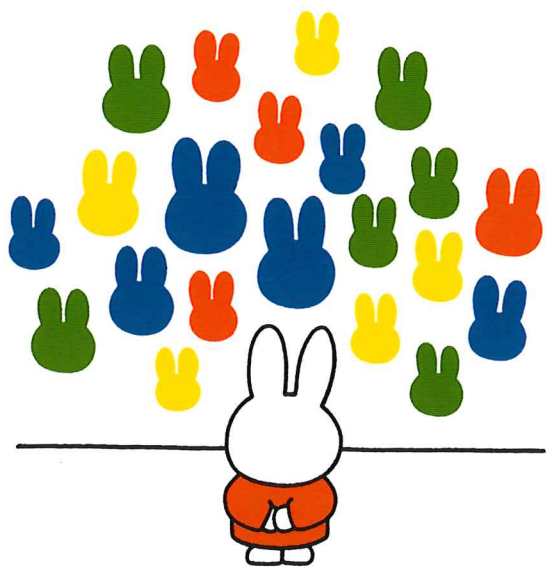
旭川美術館開館40周年

北海道新聞創刊80周年



「びじゅつかんって どんな ところかしら？  
 なんだか おもしろそう。わくわくして  
 ひとりでに あしが はずみます。」

『うさこちゃん びじゅつかんへいく』(福音館書店)  
 ぶん/え ディック・ブルーナ やく まつおかきょうこ より)



「ミッフィー(うさこちゃん)」の生みの親であり、**ディック・ブルーナ**  
 絵本作家、グラフィック・デザイナーとして知られる  
 ディック・ブルーナ。オランダのユトレヒトに生まれ、若いころにはパリやロンドンでピカソやマティス  
 といったモダン・アートにも影響を受け、デザインの  
 仕事も多く手がけています。



Photo: F. André de la Porte

この展覧会では、『うさこちゃん びじゅつかんへ  
 いく』の絵本の内容に沿って、当館所蔵の絵や彫刻を  
 見ていただくとともに、ブルーナのデザインや絵本の作品を楽しんでいただけます。  
 ミッフィーと一緒に、美術館で絵や彫刻を楽しもう！

**見**てみよう

絵本『うさこちゃん びじゅつかんへ  
 いく』の絵本の内容に沿って、美術館  
 のコレクションをご紹介します。

速藤 享(SPACE&SPACE<GRAPE II >)1985年、当館蔵

**考**えてみよう

絵本のほか、ディック・ブルーナの  
 ペーパーバックやポスターなどのデ  
 ザインの仕事をご紹介します。

**作**ってみよう

ブルーナの手法を体験できる「いろ  
 がみワーク」、ミッフィーの耳型を作  
 る「みみmiミッフィー」ができるコー  
 ナーがあります。

Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2022 www.miffy.com

**あわせて楽しむイベント**

いずれのイベントも参加は無料ですが、受付時に観覧券(半券可)の  
 ご提示をお願いします。※観覧無料の方の分は、観覧券(半券可)のご提示は不要です。

**図書館×美術館「絵本のよみきかせ会」**

**日時** 4/24(日)、29(金・祝)、5/26(木)、6/21(火)  
 各日午後2時～、午後3時～  
 (各回20分)

6月21日はミッフィーのお誕生日。  
 絵本を楽しみながらお祝いしよう！

**会場** 当館講堂 **定員** 各回10名

**申込** 4/12(火)受付開始

読み聞かせ：  
 旭川市図書館子ども読書活動推進ボランティアネットワーク

**イベントお申込み・お問い合わせ 旭川美術館へ**  
 ☎0166-25-2577 受付時間 9:30～17:00(月曜休館)

**30分でわかる！  
 学芸員の見どころ解説**

**日時** 5/21(土)、6/4(土)、5(日)  
 各日午前11時～、午後2時～  
 (各回30分)

**会場** 当館講堂 **定員** 各回30名

**申込** 4/26(火)受付開始

**「ミッフィーと記念撮影」**

期間中、美術館ロビーにミッフィーと  
 一緒に写真撮影できるフォトスポット  
 が登場！※事前申込、観覧券のご提示は不要です。

**子ども工作ワークショップ**

**会場** 当館講堂 **定員** 各回10名

**「ゆらゆら遊ぼう！ヤジロペー作り」**

**日時** 4/23(土)  
 午前10時30分～、午後1時～ (各回1時間)

**対象** 小学生 **申込** 4/5(火)受付開始

**「ちびっこデザイナーのこだわり絵本バッグ」～色の世界～**

色紙を使って絵本バッグを自由にデザイン。  
 ブルーナの絵本が入るサイズです。

**日時** 5/29(日) **対象** 3歳～小学生

**申込** 4/26(火)受付開始

**主催** 旭川大学短期大学部 椎名ゼミ

**[交通案内]**

- 徒歩/JR旭川駅から約20分
- バス/JR旭川駅北側の1条通の14番バス停(1条8丁目)から3・23・24・33・35番のバスに乗車。最寄りのバス停は(4条4丁目)(3・33・35番)、徒歩5分。または(8条西1丁目)(23・24番)、徒歩3分。また、バス停(常磐公園前)を経由するバス(バス停から徒歩7分)もご利用いただけます。
- タクシー/JR旭川駅から約10分。800円程度。
- 駐車場/常磐公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)をご利用いただけますが、台数に限りがあります。

**北海道立旭川美術館**  
 Hokkaido Asahikawa Museum of Art  
 〒070-0044 旭川市常磐公園内 Tel:0166-25-2577

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj> [https://twitter.com/Asahikawa\\_Art](https://twitter.com/Asahikawa_Art)

※展覧会およびイベントの予定は、やむを得ず変更となることがございます。その場合は、展覧会公式ホームページ等にてお知らせいたします。



**同時開催 第2展示室のごあんない**

開館40周年記念  
**「木の造形」クロニクル**  
 2022.4.23(土)～6.26(日)  
 休館日:月曜日  
 開館40周年を記念して、旭川美術館が誇る「木の造形」コレクションの40年を振り返ります。木彫と木工芸という両面から木の表現の多彩さ、豊かなコレクションを築きあげてきた当館の歩みをご覧ください。  
 観覧料:一般260(210)円、高大生150(110)円  
 \*( )内は10名以上の団体料金。  
 \*中学生以下および65歳以上の方などは無料。  
 土曜日・この日は高校生無料。

**[前売券発売所] 4/22(金)まで**  
 北海道立旭川美術館、旭川富貴堂各店、ローソンチケット(Lコード:11938)、セブンチケット(セブンコード:092-731)、チケットぴあ(Pコード:685-915)、札幌市内道新プレイガイド、道新プレイガイドオンラインストアほか  
 ※4/23以降、ローソンチケット、セブンチケット、チケットぴあ、道新プレイガイドオンラインストアでは当日券を販売します。

**ご来館の皆様へ 新型コロナウイルス感染拡大防止についてお願い**

●発熱や体調不良等の症状のある方はご来館をお控えください。●ご入館の際は、「マスク着用」、「手指消毒」、「検温」をお願いします。●混雑時には入館にお時間をいただく場合がありますので、ご了承願います。●来館者等に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合にその事実をお客様へお伝えするための「連絡先登録」にご協力をお願いします。

開館 40 周年記念 旭川市市制施行 100 年記念

## 旭川の美術 100 年 第一部

Asahikawa's Art During the Last Hundred Years, Part I

会 期：7 月 9 日(土)～9 月 4 日(日)

主 催：北海道立旭川美術館

共 催：北海道新聞旭川支社

後 援：旭川市市制施行 100 年記念事業実行委員会

本展は、当館の開館 40 周年と旭川市の市制 100 周年を記念して、およそ 100 年間の旭川画壇と街の歴史、また当館の 40 年間のコレクションの精華を紹介しようと企画された。第一部（第 1 展示室）は、「旭川画壇の発展」と「彫刻の街・旭川」の 2 つのコーナーで構成。旭川画壇の黎明期を紹介する「旭川画壇の発展」では、近年寄贈を受けた関兵衛や上野山清貢、秋田義一の貴重な戦前の作品を一堂に紹介することができた。

第二部（第 2 展示室）では彫刻の街・旭川にある二つの美術館、当館と中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館の名品を紹介。佐藤忠良、柳原義達、舟越保武ら中原悌二郎賞受賞作家に加え、ロダンや中原悌二郎作品を展示した。

会期中は、地域の美術の歩みについての講演会やギャラリートークなど企画を相次いで開催し、いずれも好評を博した。観覧者数は 2,443 名であった。

### ■関連事業

[講演会「旭川の作家たちー地域美術の魅力」]

7 月 9 日(土) 午後 2 時～(約 90 分)

講 師：新明 英仁氏(前市立小樽美術館長)

会 場：講堂(事前募集制、聴講無料)

参加人数：22 名

[講演会「彫刻の街・旭川ーその歩みと現況について」]

8 月 27 日(土) 午後 2 時～(約 60 分)

講 師：藤井 忠行氏(彫刻家)

会 場：講堂(事前募集制、聴講無料)

参加人数：32 名

[学芸員の見どころ解説]

講 師：佐藤 由美加（学芸課長）  
会 場：講堂（事前募集制、聴講無料）



7月22日（金） 午後2時～（約30分）  
参加人数：11名



8月5日（金）午後2時～（約30分）  
参加人数：3名

[ギャラリートーク①]

7月24日（日） 午後2時～（約60分）  
講 師：佐藤 由美加（学芸課長）  
会 場：第1展示室（事前募集制、要観覧券）  
参加人数：5名

[ギャラリートーク②]

7月30日（土） 午後2時～（約60分）  
講 師：山腋 雄一氏（中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館長）  
会 場：第1展示室、第2展示室（事前募集制、要観覧券）  
参加人数：14名

[教員のための鑑賞研修]

7月24日（日） 午前10時～（約60分）  
講 師：佐藤 由美加（学芸課長）  
会 場：講堂、第1展示室（事前募集制、参加無料）  
参加人数：2名

[オリエンテーション]

講 師：佐藤 由美加（学芸課長）  
会 場：講堂  
実施回数：1回  
参加者数：27名  
（希望団体対象の解説、予約制、参加無料）

■主な新聞記事等

北海道新聞 記事：7/10, 8/23 広告：6/17, 6/21, 6/28, 7/3, 7/5, 7/9, 7/15, 7/19, 7/25, 8/9, 8/11, 8/13, 8/16,

8/19, 8/23, 8/29, 8/31, 9/2

北海道通信 7/1, 7/26, 7/29, 8/16, 8/22, 8/31

■広報印刷物

ポスター：B2 縦、マットコート 135 kg、片面カラー、1,400 枚

チ ラ シ：A3 判 2 つ折り、マットコート 110 kg、両面カラー、17,000 枚

観 覧 券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券) 縦 160×横 60mm、(割引券) 縦 160×横 70mm

マットコート 90 kg、片面カラー、9,100 枚

デザイン：磯 優子 (文編図工室)

製 作：株式会社総北海



## 旭川の美術100年 第一部 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先
<b>I 旭川画壇の発展</b>						
<b>スタックカムシュッペ画会の創立</b>						
1	関 兵衛	冬	1939(昭和14)	油彩、板	38.0×46.0	
2	高橋 北修	ことぢ像	1924(大正13)頃	油彩、キャンバス	60.0×45.5	
3	高橋 北修	北見の海	1931(昭和6)	油彩、キャンバス	91.6×116.0	旭川市(当館寄託)
4	高橋 北修	池辺にて見し	1936(昭和11)	油彩、キャンバス	162.0×130.0	
5	高橋 北修	路傍	1975(昭和50)	油彩、キャンバス	112.1×145.5	
6	高橋 北修	北千島従軍スケッチ	1943(昭和18)	鉛筆、水彩、紙	26.0×35.0	
7	上野山 清貢	燻製	1934(昭和9)	油彩、キャンバス	100.0×47.0	
8	上野山 清貢	水族館	1937(昭和12)頃	油彩、キャンバス	91.0×72.8	
9	上野山 清貢	硫黄山	1943(昭和18)	油彩、キャンバス	63.0×85.0	
10	秋田 義一	風景	1922(大正11)	油彩、キャンバス	45.5×52.7	
11	小熊 秀雄	三色スマレ	1930年代	水彩、紙	29.5×22.0	旭川市(当館寄託)
12	小熊 秀雄	自画像	1938(昭和13)	油彩、キャンバス	46.3×33.5	旭川市(当館寄託)
13	小熊 秀雄	百合の花	1930年代	油彩、キャンバス	40.0×31.7	旭川市(当館寄託)
資料『みづえ』第175号						北海道立近代美術館
<b>画壇の再編</b>						
14	菅原 無田	竹斎読書図	1934(昭和9)	紙本墨色、軸	145.0×55.0	
15	朝倉 力男	河畔吹雪去る	1946(昭和21)	油彩、キャンバス	90.3×116.7	
16	朝倉 力男	河畔の厳冬	1959(昭和34)	油彩、キャンバス	112.1×145.5	
17	小浜 亀角	晩春の大雪山	1974(昭和49)	紙本彩色	223.0×170.0	
18	小沼 源雄	山の早春	1974(昭和49)頃	油彩、キャンバス	130.3×162.1	
19	上條 雄也	雪国の家族	1956(昭和31)	油彩、キャンバス	193.3×130.3	
20	根守 悦夫	岳	1970(昭和45)頃	油彩、キャンバス	81.0×66.0	
21	山口 信太郎	屋上の雪	1960(昭和35)	油彩、キャンバス	116.7×90.9	
22	山口 健智	画家の像(自画像)	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	65.0×54.0	
23	山口 健智	小海老の静物	1976(昭和51)	油彩、板	54.0×65.0	
24	武田 範芳	セーヌ河畔	1968(昭和43)	油彩、キャンバス	145.5×112.1	
25	佐藤 進	北大構内	1939(昭和14)頃	水彩、紙	38.0×40.0	
26	佐藤 進	廃屋	1967(昭和42)	水彩、紙	70.5×96.3	
27	佐藤 進	新緑の頃	1982(昭和57)	水彩、紙	72.5×90.0	
28	佐藤 進	館	1980(昭和55)	水彩、紙	97.0×133.0	
29	泉 秀雄	農家の秋	1936(昭和11)	水彩、紙	55.0×75.0	

30	泉 秀雄	冬の貯炭場	1955(昭和30)	水彩、紙	109.0×75.0
31	北島 吉光	静謐を愛する男	1946(昭和21)	油彩、キャンバス	72.7×60.6
32	北島 吉光	曇った街	1952-55(昭和27-30)	油彩、キャンバス	72.7×90.9
33	楓 久雄	自画像	1947(昭和22)	油彩、板	65.0×50.0
34	杉本 カツヨシ	自画像	1946(昭和21)	油彩、キャンバス	41.0×31.5
35	村山 陽一	岡の見える風景	1952(昭和27)	油彩、板	24.0×33.4
36	村山 陽一	自画像	昭和20年代	油彩、キャンバス	53.0×45.0
37	村山 陽一	深海魚の夢	1955(昭和30)	油彩、キャンバス	53.5×45.6
38	村山 陽一	不詳	1958-1960(昭和33-35)頃	油彩、キャンバス	72.2×116.2
39	村山 陽一	祭4	1958(昭和33)頃	グワッシュ、紙	67.0×103.0
40	村山 陽一	生態	1958(昭和33)	グワッシュ、紙	72.4×53.8
41	菅原 弘記	植物の内部	1961(昭和36)	油彩、キャンバス	53.0×45.5
42	菅原 弘記	石女	1963(昭和38)	油彩、キャンバス	45.5×53.0

資料

純生展パンフレット	旭川市中央図書館
新ロマン派美術展パンフレット	旭川市中央図書館
北海道アンデパンダン展から北島吉光への感謝状	
北島吉光「村山陽一との出会い」原稿	
北海道アンデパンダン展パンフレット、新聞記事	旭川市中央図書館
梅鳳堂画廊オープン案内	北海道立近代美術館
グループ黄土関連スクラップ	

1970年代以降

43	菅原 弘記	作品89-1	1989(平成元)	油彩、キャンバス	112.1×162.1
44	一ノ戸 ヨシノリ朝の食卓		1971(昭和46)	人形、コーヒー カップ、テーブル 他	119.9×216.5 ×104.3
45	末武 英一	標本箱シリーズ 「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリー ン、鏡	58.5×88.5
46	末武 英一	標本箱シリーズ 「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリー ン、布	58.5×88.5
47	末武 英一	標本箱シリーズ 「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリー ン、アルミ板(腐 蝕)	58.5×88.5
48	末武 英一	標本箱シリーズ 「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリー ン、砂鉄、透明ア クリル板	58.5×88.5
49	荒井 善則	Soft Landing to Season 2013	2013(平成25)	シルクスクリー ン、モノタイププ リント、紙	81.0×149.0
50	神田 一明	静物(A)	1976(昭和51)	油彩、キャンバス	130.7×193.9
51	高橋 三加子	室内	1981(昭和56)	油彩、キャンバス	162.1×130.3
52	佐藤 道雄	夏の丘	1995(平成7)	油彩、キャンバス	162.1×162.1
53	佐藤 道雄	早春	1990(平成2)	油彩、キャンバス	130.3×162.1

54	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (2-3頁) (4-5頁) (6-7頁) (16-17頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレ ヨン、紙	26.5×30.5
55	盛本 学史	チグリズ	2000(平成12)	油彩、キャンバス	91.0×72.5

ポスター

アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム  
セカンドロフト・コミュニケーション  
TRANSMISSION ART NOW 発信  
CIRCULATION '85

資料

2ndロフト  
CIRCULATION85  
アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム

旭川出身の作家

56	山口 正城	作品51X	1951(昭和26)	水性絵具、紙	72.9×72.5	
57	山口 正城	赤いカノン	1956(昭和31)	水性絵具、紙	44.0×70.9	
58	山口 正城	春のこだま	1957(昭和32)	水彩、紙	129.5×161.4	
59	山口 正城	作品59-7	1959(昭和34)	水彩、紙	129.5×161.4	
60	鹿目 尚志	逃亡の企て-失意	1981(昭和56)	ガラス、金属	25.0×20.0× 25.0	
61	鹿目 尚志	気が気でない気箱	1981(昭和56)	ケヤキ、鉄	30.0×30.0× 51.0	
62	遠藤 享	SPACE & SPACE (GLASSⅢ)	1984(昭和59)	オフセット・リト グラフ、紙	45.0×45.0	
63	遠藤 享	SPACE & SPACE (BOTTLEⅢ)	1982(昭和57)	オフセット・リト グラフ、紙	45.0×45.0	
64	遠藤 享	SPACE & SPACE (N1513)	2015(平成27)	アルッシュ紙、オ フセット、リトグ ラフ	46.0×31.0	
65	遠藤 享	SPACE & SPACE (N1417)	2014(平成26)	アルッシュ紙、オ フセット・リトグ ラフ	46.0×31.0	
66	百瀬 寿	NE. Blue to Black	2015(平成27)	アクリル、岩絵 具、和紙	120.0×120.0	
67	難波田 龍起	郊外	1951(昭和26)	油彩、キャンバス	100.0×80.3	旭川市 (当館寄託)
68	難波田 龍起	風景	1956(昭和31)	油彩、キャンバス	50.6×60.5	
69	難波田 龍起	水の上	1954(昭和29)	油彩、キャンバス	100.0×80.3	
70	難波田 龍起	夜の生物苑	1970(昭和45)	油彩、エナメル、 キャンバス	97.0×130.3	
71	難波田 龍起	生の交響詩	1992(平成4)	油彩、キャンバス	112.0×145.0	
72	難波田 龍起	(無題)	1985(昭和60)	紙、グワッシュ	27.0×38.0	
73	難波田 龍起	(無題)	1989(平成元)	水彩、パステル、 紙	26.0×36.5	
74	難波田 龍起	(無題)	1986(昭和61)	水彩、紙	16.0×21.5	
75	難波田 龍起	(無題)	1988(昭和63)	水彩、紙	16.0×21.5	
76	福井 爽人	彩の刻	2008(平成20)	紙本彩色	180.0×360.0	
77	福井 爽人	沼の風景	2002(平成14)	紙本彩色、屏風 (四曲一隻)	177.0×360.0	

II 彫刻の街・旭川

78	中原 悌二郎	平櫛田中像	1919(大正8)	ブロンズ	38.0×26.0× 22.0	中原悌二郎記念旭川市 彫刻美術館
79	加藤 顕清	コタンのアイヌ	1941(昭和16)	ブロンズ	33.0×26.0× 27.0	中原悌二郎記念旭川市 彫刻美術館
80	板津 邦夫	風神、又は雷神	1982(昭和57)	ニレ	56.0×32.0× 236.0	
81	藤川 叢三	立像14	1968(昭和43)	ブロンズ	18.7×26.8× 61.7	
82	神田 比呂子	Y. MAYA嬢	1990(平成2)	テラコッタ(発色性 の土を使用。着色 はしていない)	84.0×47.0× 67.0	
83	寺田 榮	石走る(いはばしる)	2003(平成15)	白御影石	60.0×37.0× 30.0	
84	山谷 圭司	九本の杭による正方形	1997(平成9)	黒御影石、木	48.0×48.5× 10.0	
85	藤井 忠行	椅子	1983(昭和58)	クルミ、エンジュ	142.0×50.0 ×115.0	
86	砂澤 ビッキ	崑面	1975(昭和50)	木	36.0×21.0× 11.5	
87	砂澤 ビッキ	樹鈴	1977(昭和52)	セン	49.5×28.5× 12.3	中原悌二郎記念旭川市 彫刻美術館
88	砂澤 ビッキ	樹鮭	1977(昭和52)	セン	174×71×17	中原悌二郎記念旭川市 彫刻美術館
89	砂澤 ビッキ	樹蝶	1977(昭和52)	セン	86×120×18	中原悌二郎記念旭川市 彫刻美術館
90	砂澤 ビッキ	風の王と王妃	1988(昭和63)	タモ	44.0×37.5× 172.5	
91	砂澤 ビッキ	集吸呼 A	1986(昭和61)	クルミ、カツラ	198.0×146.0 ×35.0	
92	砂澤 ビッキ	午前3時の玩具	1987(昭和62)	カツラ	34.0×80.0× 20.0	

※所蔵先に記載のないものは当館蔵

開館40周年記念 旭川市市制施行100年記念

# 旭川美術100年

Asahikawa's Art During the Last Hundred Years, Part I and Part II

2022年 7月9日〈土〉～9月4日〈日〉

開館時間 | 午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで) 休館日 | 月曜日(ただし7月18日をのぞく)、7月19日(火)



佐藤進《館》1980年 当館蔵

観覧料	一般	高大生	小中生
第一部(第1展示室)	800(600)円	500(400)円	300(200)円
第二部(第2展示室)	260(210)円	150(110)円	無料
第一部・第二部 共通券	910円	560円	300円

- \* ( )内は前売・10名以上の団体料金。
- \* 前売券の販売は第一部のみ、7月8日(金)まで当館で販売します。第二部の前売券はありません。
- \* 障がい者手帳をお持ちの方等は無料。
- \* 65歳以上の方、土曜日の高校生は第二部が無料。
- \* 7月17日(道みんの日)、7月24日(開館記念日)は、第二部が無料。
- \* 各種割引料金については、旭川美術館までお問い合わせください。

主催：北海道立旭川美術館 共催：北海道新聞旭川支社  
後援：旭川市市制施行100年記念事業実行委員会

北海道立旭川美術館  
Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内  
Tel: 0166-25-2577  
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>  
@Asahikawa\_Art



開館40周年記念 旭川市市制施行100周年記念

# 旭川の美術100年

Asahikawa's Art During the Last Hundred Years,  
Part I and Part II

1901(明治34)年以降、旧陸軍第七師団が駐屯した旭川は、軍都として栄え、1922(大正11)年には市制が施行されました。1982(昭和57)年、北海道第二の都市である旭川に、札幌以外では初となる道立美術館が開館しました。

本展は、当館の開館40周年と旭川市の市制施行100年を記念して開催するもので、第一部で旭川の美術の歴史、第二部では彫刻の街・旭川にある二つの美術館、当館と中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館の名品を紹介します。



北島吉光《曇った街》1955年 当館蔵



山口健智《小海老の静物》1976年 当館蔵



難波田龍起《生の交響詩》1992年 当館蔵



高橋北修《ことち像》1924年頃 当館蔵

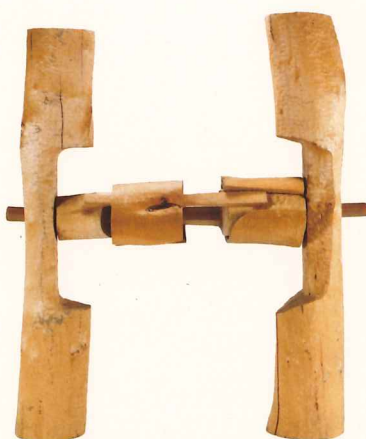


朝倉力男《河畔吹雪去る》1946年 当館蔵

## 第一部

旭川で、絵画好きな青年たちがヌタックカムシュペ画会を創立したのが1918(大正7)年。その後、画家たちの交流が活発になり、道内外の団体展入選者も増えていきます。第二次世界大戦後、国内で美術団体の再編が進み、旭川でも、純生美術会、新浪漫派美術協会(現・新ロマン派美術協会)、北海道アンデパンダン展の3つの団体が生まれます。北海道アンデパンダン展は1966(昭和41)年に解散しますが、若い作家たちの間では、公募展にかわる新しい美術運動を求める機運が高まり、その後の新たな活動につながっていきました。

旭川で生まれ育ち、日本の美術界で活躍した作家、地元を拠点に制作を続ける作家など、およそ100年間に旭川の地が生み出した美術の流れを紹介します。



砂澤ヒッキー《集吸呼A》1986年 当館蔵



砂澤ヒッキー《樹蛙》1977年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵



佐藤道雄《夏の丘》1995年 当館蔵



福井爽人《沼の風景》2002年 当館蔵

# 「彫刻の街、旭川」

二つの美術館の名品

萩原守衛《坑夫》1907年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵



オーギュスト・ロダン  
《ジャン・テールの裸体習作》1886-189年頃  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵



中原悌二郎《平柳田中像》1919年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

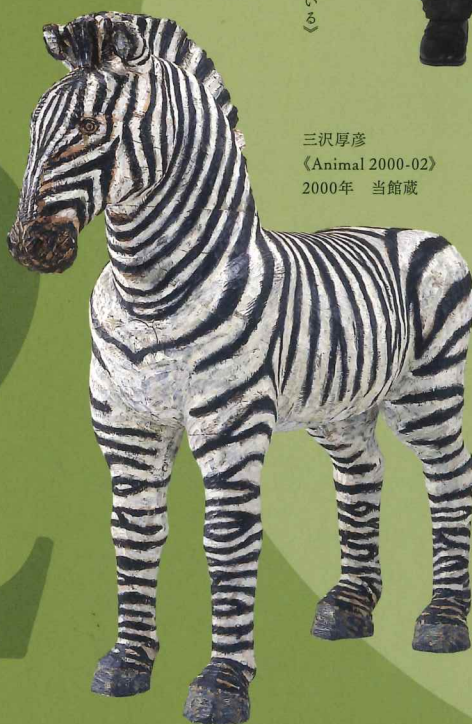


舟越桂  
《午後にはガンター・グロウズにいる》  
1988年 当館蔵



舟越桂《点の中の距離》2003年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

三沢厚彦  
《Animal 2000-02》  
2000年 当館蔵

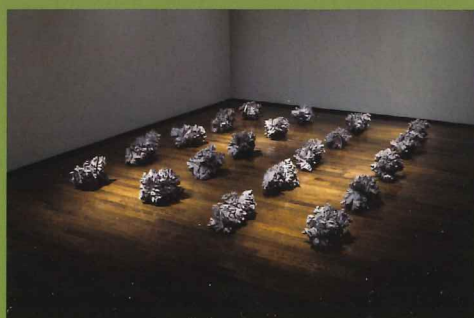


三沢厚彦《Animal 2017-05》2017年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

## 第二部

北海道立旭川美術館は、豊かな森林資源に恵まれ木工・家具産業がさかんな地域性を背景に、「木の造形」作品を収集の柱とし、木工芸や現代木彫などを幅広く収蔵しています。中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館は、旭川で少年時代を過ごした中原悌二郎(1888~1921)の作品、中原に影響を与えたロダンや萩原守衛、中原の偉業を顕彰する中原悌二郎賞の受賞作品などを収蔵しています。

第二部では、旭川にある2つの美術館の彫刻の名品をお楽しみください。



戸谷成雄《漢詩的-II》2014年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵



佐藤忠良《カンカン帽》1975年  
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

# 北海道立旭川美術館と 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

北海道立旭川美術館は、1982年7月24日、緑豊かな常磐公園の中に開館しました。今年開館40周年を迎えますが、開館当初、当館には常設展示室はなく、1992年11月に常設展示室（現第2展示室）が完成するまで10年間、常設作品として当館ロビーに展示されていたのが旭川市所蔵の中原悌二郎作品でした。

現在、中原悌二郎作品は、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館に展示されています。白亜の建物は、旭川に陸軍第七師団が設置されていた頃に将校たちの社交場として建設された旧偕行社（重要文化財）です。戦後、市立旭川郷土博物館として活用された後、1994年に彫刻美術館として開館し、2012年から大規模改修を実施し2017年に再開しました。

「旭川の美術100年」は、北海道内の美術館がネットワークでつながるアートギャラリー北海道事業として開催するものです。市内二つの美術館の名品を一緒に展覧します。



北海道立旭川美術館



北海道立旭川美術館ロビー（中原作品が並ぶ）1980年代



中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

〒070-0875 旭川市春光5条7丁目 Tel.0166-46-6277

## 関連事業 〈事前申込〉

### 講演会「旭川の作家たち—地域美術の魅力」

日時：7月9日（土）午後2時～（約90分）

講師：新明英仁氏（前市立小樽美術館長）

会場：当館講堂（定員30名、聴講無料）

### ギャラリー・トーク ①

日時：7月24日（日）午後2時～（約60分）

講師：当館学芸員

会場：当館第1展示室（定員20名、要観覧券）

### ギャラリー・トーク ②

日時：7月30日（土）午後2時～（約60分）

講師：山脇雄一氏（中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館長）

会場：当館第1・第2展示室（定員20名、要観覧券）

### 学芸員の見どころ解説

日時：7月22日（金）、8月5日（金）午後2時～（約30分）

講師：当館学芸員

会場：当館講堂（各回定員30名、聴講無料）

### ■各種イベントのお申し込み

Tel.0166-25-2577（開館日のみ午前9時30分～午後5時）

### ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。展覧会および関連事業の予定は、変更となる場合がございます。最新情報を美術館ホームページ等でご確認のうえご来館ください。

## 交通案内



徒歩〉JR旭川駅から約20分。

タクシー〉JR旭川駅から約10分。800円程度。

駐車場〉Pマークのある常磐公園駐車場（無料/午前9時～午後5時）をご利用いただけますが、台数に限りがあります。

バス〉JR旭川駅北側の1条通の14番バス停【1条8丁目】から3・23・24・33・35番のバスに乗車。最寄りのバス停は【4条4丁目】（3・33・35番）、徒歩5分。または【8条西1丁目】（23・24番）、徒歩3分。また、バス停【常磐公園前】を経由するバスもご利用いただけます。バス停から徒歩7分。

## 北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内

Tel: 0166-25-2577

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>

Twitter: @Asahikawa\_Art





開館 40 周年記念

## 世界が絶賛した浮世絵師 北斎展 一師とその弟子たち

HOKUSAI : The World Acclaimed Ukiyoe Artist

会 期 : 9 月 17 日(土)~11 月 27 日(日)

主 催 : 北海道立旭川美術館、北斎展旭川市民実行委員会

共 催 : 北海道新聞旭川支社

後 援 : 旭川市、旭川市教育委員会、愛別町教育委員会、上川町教育委員会、鷹栖町教育委員会、当麻町教育委員会、美瑛町教育委員会、東川町教育委員会、東神楽町教育委員会、比布町教育委員会、NHK 旭川放送局、旭川ケーブルテレビ「ポテト」、FM リベール、あさひかわ新聞、旭川商工会議所、旭川美術振興会  
企画協力 : ステップ・イースト (監修 : 中右瑛 [国際浮世絵学会常任理事])

江戸時代後期に活躍した浮世絵師・葛飾北斎(1760〔宝暦 10〕~1849〔嘉永 2〕年)は 70 年余りの長い作画期間にわたり幅広い分野に挑み続け、膨大な数の名作を世に送り出した。巧みな線描と象徴的な色使い、大胆な構図を特徴とするその作品は独自の世界を築くとともに、多くの絵師たちや国内外のアーティストたちに刺激をもたらし、今日に至るまで国際的に評価と人気を博している。

本展では、北斎作品 122 点、弟子や海外作家による 70 点を展覧した。北斎作品では、二十歳のデビュー作となった役者絵や初期の美人画をはじめ、西洋伝来の銅版画に触発されて制作した洋風画、「忠臣蔵」や「東海道五十三次」を主題とした連作、その名を冠した絵手本《北斎漫画》、70 代の老境に差し掛かり浮世絵界に風景画のジャンルを拓いた《富嶽三十六景》、奇想あふれる妖怪絵など、版画の代表作とともに、貴重な肉筆画が来場者の熱心な鑑賞を集めた。

また、北斎が多く抱えた弟子たちによる肉筆画や版画、《富嶽三十六景》へのオマージュとしてフランスの画家アンリ・リヴィエールが手がけた《エッフェル塔三十六景》も加わり、影響力といった視点からも北斎芸術の全貌に触れる機会となった。

会期中には、本展監修者で出品作品の所蔵者でもある中右瑛氏を迎え、北斎の 90 年に及ぶ波瀾万丈の生涯と芸術の神髄に触れる講演会を開催したほか、閉館後の展示室で気兼ねなく会話しながら作品を鑑賞するギャラリートークや、北斎の誕生日にあわせたオリジナル缶バッジのプレゼント企画など、多彩な関連事業を共催の旭川市民実行委員会との協働により実施し、好評を得た。幅広い年代の来館者を集め、観覧者数は 19,299 名にのぼった。

### ■関連事業

[中右瑛氏ギャラリートーク]

10 月 7 日(金) 午後 3 時~(約 30 分)

講 師 : 中右 瑛 氏 (国際浮世絵学会常任理事、本展監修者)

会 場 : 第 1 展示室 (事前募集制、要観覧券)

参加人数：17名

〔講演会「北斎 波瀾万丈 90年の生涯」〕

10月8日（土） 午前10時30分～（約90分）

講師：中右 瑛 氏（国際浮世絵学会常任理事、本展監修者）

会場：講堂（事前募集制、聴講無料）

参加人数：40名

〔ギャラリートーク〕

講師：マダムケロコ氏（FMりべるパーソナリティー）、藤原 乃里子（主任学芸員）

会場：第1展示室（事前募集制、要観覧券）



10月14日（金）午後6時～（約60分）

参加人数：21名



10月27日（木）午後6時～（約60分）

参加人数：18名



11月10日（木）午後6時～（約60分）

参加人数：16名

〔30分でわかる！学芸員の見どころ解説〕

講師：藤原 乃里子（主任学芸員）

会場：講堂（事前募集制、聴講無料）



9月23日（金・祝）午後2時～（約30分）

参加人数：23名



10月15日（土）午後2時～（約30分）

参加人数：23名



11月4日（金）午後2時～（約30分）

参加人数：38名



11月26日（土）午後2時～（約30分）

参加人数：24名

[北斎誕生日記念品企画]

9月23日(金・祝) 午前9時30分～

内 容：出品作品の絵柄をプリントした缶バッジを北斎展観覧者に贈呈

会 場：第1展示室受付(要観覧券)

参加人数：300名

[教員のための鑑賞研修]

10月1日(土) 午前10時～(約60分)

講 師：藤原 乃里子(主任学芸員)

会 場：講堂、第1展示室(事前募集制、参加無料)

参加人数：20名

[オリエンテーション]

講 師：学芸員

会 場：講堂

実施回数：16回

参加者数：282名

(希望団体対象の解説、予約制、参加無料)

■主な新聞記事等

北海道新聞 記事：9/18, 9/30, 10/12, 10/13, 11/3, 11/19 連載：11/8, 11/9, 11/10, 11/15, 11/17 広告：7/13, 7/15(夕), 7/17, 7/19(夕), 7/23, 7/27, 8/9, 8/11, 8/14, 8/16, 8/17, 8/19, 8/27, 8/29, 8/30(夕), 8/31, 9/5, 9/7, 9/8, 9/5, 9/7, 9/8, 9/10, 9/21, 9/22, 9/26, 9/27, 9/28, 10/1, 10/3, 10/4, 10/6, 10/11(夕), 10/17, 10/18, 10/18, 10/19, 10/20, 10/22, 10/23, 10/24, 10/25, 10/26, 10/27, 10/29, 10/30, 10/31, 11/1, 11/2, 11/5, 11/6, 11/7, 11/8, 11/10, 11/11, 11/12, 11/13, 11/15, 11/16, 11/18, 11/19, 11/19(夕), 11/21, 11/22, 11/24, 11/25

北海道通信 10/6, 10/11, 10/11, 10/18, 10/20, 11/2, 11/17, 11/24

■広報印刷物

ポスター：B2 縦、OK トップコートマット N 135 kg、片面カラー、1,900 枚

チ ラ シ：A4 縦、OK トップコートマット N 110 kg、両面カラー、28,000 枚

観 覧 券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券) 縦 140×横 60mm

OK トップコートマット N 90 kg、片面カラー、24,000 枚

デザイン：やはずの よしゆき(株式会社 20 パーセント)

製 作：株式会社総北海

開館40周年記念 世界が絶賛した浮世絵師 北斎展 —師とその弟子たち— 出品目録

No.	作家名	作品名	技法・材質	寸法 (cm)
1	葛飾北斎(春朗)	青面金剛図	掛物	39.5×14.5
2	葛飾北斎(春朗)	岩井半四郎のかしく	錦絵細判	
3	葛飾北斎(春朗)	市川団十郎の大星由良之助	錦絵細判	
4	葛飾北斎(春朗)	嵐村次郎のせうせう	錦絵細判	
5	葛飾北斎(春朗)	二世瀬川富三郎の十内いもうと片貝	錦絵細判	
6	葛飾北斎(春朗)	江戸見坂夜雨	錦絵中判	
7	葛飾北斎(春朗)	風流江戸百日の出	錦絵中判	
8	葛飾北斎(春朗)	七福神	錦絵大判	
9	葛飾北斎(春朗)	新版浮絵浦島龍宮入之図	錦絵大判	
10	葛飾北斎(春朗)	江都両国橋夕涼花火之図	錦絵大判	23.5×36.0
11	葛飾北斎(春朗)	金太郎と鷲と熊	錦絵大判	
■北斎修業・壮年期～宗理、可候、不染居、北斎、戴斗の時代～				
【忠臣蔵】				
12	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》初段鶴ヶ岡	錦絵間判	
13	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第二段目	錦絵間判	
14	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第三段目	錦絵間判	
15	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第四段目	錦絵間判	
16	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第五段目	錦絵間判	
17	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第六段目	錦絵間判	
18	葛飾北斎(北斎)	仮名手本忠臣蔵[全12図]	錦絵中判	各26.0×19.5 (12点)
19	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第七段目	錦絵間判	
20	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第八段目	錦絵間判	
21	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第九段目	錦絵間判	
22	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第十段目	錦絵間判	
23	葛飾北斎(可候)	《新板浮絵忠臣蔵》第十一段目	錦絵間判	
【東海道五十三次】				
24	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》絵本駅路鈴 表紙		各22.8×16.0 (2点)
25,26	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》序文		22.5×31.5
27	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》日本橋／品川	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
28	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》川崎／神奈川	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
29	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》程ヶ谷／戸塚	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5

30	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》藤澤／平塚	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
31	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》大磯／小田原	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
32	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》箱根／三島	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
33	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》沼津／原	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
34	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》吉原／蒲原	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
35	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》由井／興津	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
36	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》江尻／府中	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
37	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》鞠子／岡部	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
38	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》藤枝／寫田	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
39	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》金谷／日坂	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
40	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》掛川／袋井	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
41	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》見附／濱松	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
42	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》舞坂／荒井	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
43	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》白須賀／雙川	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
44	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》吉田／御油	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
45	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》赤坂／藤川	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
46	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》岡崎／池鯉鮒	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
47	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》鳴海／宮	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
48	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》桑名／四日市	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
49	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》石薬師／庄野	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
50	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》龜山／關	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
51	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》坂の下／土山	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
52	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》水口／石邊	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
53	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》草津／大津	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
54	葛飾北斎(無款)	《東海道五十三次》京都／大内山	中判二丁掛 大判サイズ	22.5×31.5
55	葛飾北斎(前北斎戴斗)	東海道五十三次名所一覽	錦絵大々判	43.5×58.5
<b>【妖怪趣味】</b>				
56	葛飾北斎(前北斎)	《百物語》こはだ小平二	錦絵中判	
57	葛飾北斎(前北斎)	《百物語》笑ひはんにゃ	錦絵中判	
58	葛飾北斎(前北斎)	《百物語》さらやしき	錦絵中判	
59	葛飾北斎(前北斎)	《百物語》お岩さん	錦絵中判	
60	葛飾北斎(前北斎)	《百物語》志うねん	錦絵中判	

■風景画完成期～北斎改爲一の時代～

【富嶽三十六景】

61	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 信州諏訪湖	錦絵大判	
62	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 下目黒	錦絵大判	
63	葛飾北斎(北斎改爲一)	《富嶽三十六景》 尾州不二見原	錦絵大判	
64	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 甲州石班沢	錦絵大判	
65	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 常州牛堀	錦絵大判	
66	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 相州梅沢庄	錦絵大判	
67	葛飾北斎(北斎改爲一)	《富嶽三十六景》 神奈川冲浪裏	錦絵大判	
68	葛飾北斎(北斎改爲一)	《富嶽三十六景》 凱風快晴	錦絵大判	
69	葛飾北斎(北斎改爲一)	《富嶽三十六景》 凱風快晴(青刷り)	錦絵大判	
70	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 東都浅草本願寺	錦絵大判	
71	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 甲州三嶋越	錦絵大判	
72	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 登戸浦	錦絵大判	
73	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 甲州三坂水面	錦絵大判	
74	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 駿州江尻	錦絵大判	
75	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 江都駿河町三井見世略図	錦絵大判	24.9×37.2
76	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 隠田の水車	錦絵大判	
77	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 相州江の鳶	錦絵大判	25.5×38.0
78	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 従千住花街眺望ノ不二	錦絵大判	25.7×37.5
79	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 五百らかん寺さざみどう	錦絵大判	
80	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 身延川裏不二	錦絵大判	26.0×38.2
81	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 東海道金谷ノ不二	錦絵大判	
82	葛飾北斎(前北斎爲一)	《富嶽三十六景》 諸人登山	錦絵大判	

【洋風画】

83	葛飾北斎(ほくさみえがく)	よつや十二そう	錦絵間判(洋風画)	
84	葛飾北斎(ほくさみえがく)	くだんう志がふち	錦絵間判(洋風画)	
85	葛飾北斎(ほくさみえがく)	ぎやうとくしほはまよりのぼとのひかたをのぞむ	錦絵間判(洋風画)	
86	葛飾北斎(無款)	羽根田弁天之図	錦絵間判(洋風画)	

【文字絵六歌仙】

87	葛飾北斎 (かつしか北斎)	《文字絵》 小野小町	錦絵大判	
88	葛飾北斎 (かつしか北斎)	《文字絵》 大伴黒主	錦絵大判	

【妖怪残酷絵】

89	葛飾北斎(北斎)	《三国妖狐伝》唐土紂王館の段	錦絵大判二枚続	
90	葛飾北斎(北斎)	《三国妖狐伝》第一斑足王御てんのだん	錦絵大判二枚続	
91	葛飾北斎(無款)	白象に唐女図(普賢菩薩見立て)	錦絵大判・四枚続の内一枚	37.8×25.7
92	葛飾北斎(前北斎爲一)	鎌倉・江ノ嶋・大山 新板往来双六	錦絵大々判	70.5×50.2
93	葛飾北斎(北斎)	富嶽百景	紙本着色	25.5×15.5 (本)

■肉筆画

94	葛飾北斎(画狂人北斎)	三竦の図	肉筆画(絹本)	50.9×67.4
95	葛飾北斎(北斎戴斗)	西行図	肉筆画(紙本)	22.0×44.2
96	葛飾北斎(無款)	北斎自画像	肉筆画(紙本)	21.3×29.3
97	葛飾北斎(画狂老人卍)	海老に炭図	肉筆画(絹本)	21.3×29.0
98	葛飾北斎(画狂老人卍)	ほうき星	肉筆画(紙本)	133.0×37.7
99	葛飾北斎(不染居北斎)	おいらん道中図	肉筆画(紙本)	80.0×29.4

【肉筆画～北斎の弟子たち～】

100	葛飾北子	花魁	肉筆画(絹本)	85.6×34.0
101	葛飾北明	手紙を読む美人図	肉筆画(紙本)	130.2×53.3
102	葛飾北鼎	手鏡を持つ美人図	肉筆画(絹本)	74.0×29.8
103	抱亭五清	手鏡を見る女	肉筆画(絹本)	71.0×30.1

【百人一首】

104	葛飾北斎(前北斎卍)	《百人一首》宇波がるとき 藤原繁行朝臣	錦絵大判	
105	葛飾北斎(前北斎卍)	《百人一首》姥が恵とき 大中臣能宣朝臣	錦絵大判	

【諸国名所】

106	葛飾北斎(前北斎爲一)	《諸国瀧廻り》木曾海道小野ノ瀑布	錦絵大判	38.4×26.0
107	葛飾北斎(前北斎爲一)	《諸国名橋奇覽》山城あらし山吐月橋	錦絵大判	26.0×37.7

【中国趣味・漢画表現】

108	葛飾北斎(前北斎爲一)	《詩歌写真鏡》李白	錦絵長大判	
109	葛飾北斎(前北斎爲一)	《詩歌写真鏡》木賊苺	錦絵長大判	
110	葛飾北斎(前北斎爲一)	《詩歌写真鏡》少年行	錦絵長大判	
111	葛飾北斎(前北斎爲一)	渡辺の源吾綱 猪の熊入道雷雲	錦絵大判	35.5×24.8

■摺物・戯画・鳥羽絵

112	葛飾北斎(北斎)	風流おどけ百句	小判四枚	
113	葛飾北斎(北斎)	《鳥羽絵》 駕籠かき	錦絵中判	

114	葛飾北斎(画狂人北斎)	見立二十四孝・田毎月丸	小判摺物	22.8×18.0
115	葛飾北斎(北斎爲一)	五-歌仙・小野小町	角判摺物	21.0×18.6
116	葛飾北斎(かつしか北斎)	日の出	横長判摺物	18.5×49.2
117	葛飾北斎(画狂人北斎)	母と子供(凧)	横長判摺物	20.5×55.7
118	葛飾北斎(無款)	通人拳遊び	大判摺物	19.0×26.2
■北斎漫画				
119	葛飾北斎(北斎)	北斎漫画	紙本着色	23.0×16.0 (本)
120	葛飾北斎(先ノ宗理北斎)	母娘	横長判摺物	18.3×50.3
121	葛飾北斎(北斎)	松茸狩り二美人	横長判摺物	23.3×34.5
122	葛飾北斎(画狂人北斎)	十千の内 千金の春	小判摺物	14.0×18.7
123	葛飾北斎(不染居爲一)	《馬尽》 駒菖蒲	角判摺物	
124	葛飾北斎(画狂人北斎)	唄物尽し図(歌麿ほか合作)	横長判摺物	
125	葛飾北斎(北斎宗理)	三囲神社を望む	摺物	30.0×36.5
126	葛飾北斎(北斎宗理)	七福神見立	大判摺物	25.7×32.8
■北斎とその弟子たち～肉筆画・版画・摺物～				
127	昇亭北寿	上総九十九里地引網 大漁獵正写之図	錦絵大判	25.2×38.0
128	魚屋北溪	諸国名所 上州三国越不動峠	錦絵横大短冊判	17.3×38.0
129	柳々居辰斎	六郷渡	錦絵大判	24.0×36.2
130	岳亭春信	大阪天保山夕立の景	錦絵大判	24.5×37.0
131	蹄斎北馬	花見の図	横長判摺物	18.3×45.6
132	藤亭北紫	行楽の図	錦絵大判	25.0×37.5
133	幸斎拱一	油坊主の故事	角判摺物二枚続	各20.0×19.5 (2点)
134	葛飾北洋	新町中扇屋瓜生野太夫 若野 枝折	錦絵大判	38.3×25.9
135	柳川重信	松葉屋代々山	錦絵大判	38.2×25.8
136	柳川重山	風流窓の月	錦絵大判	39.0×26.5
137	葛飾北爲	摂州大物浦 平家怨霊頭の図	錦絵大判三枚続	36.2×75.5
138	影斎北曜	松本幸四郎	錦絵細判	31.3×15.0
139	春好斎北洲	「妹背山婦女庭訓」金輪五郎今国(中村歌右衛門)、おみわ(嵐小六)	錦絵大判	38.0×26.5
140	葎斎寛鶯	春日神殿鋳馬之写	大々判摺物	42.5×56.5
141	葛飾北鷹	鐘馗(画稿)	肉筆画(紙本)	65.0×27.2
142	蜂房秋鯉	遊女	肉筆画(絹本)	75.0×29.5



143	蹄齋北馬	おんな十二態	肉筆画(絹本)	34.0×26.5
144	魚屋北溪	新春門松の前の花魁	肉筆画(絹本)	71.3×30.5
145	葛飾北雲	羽根つき	肉筆画(絹本)	120.0×40.5
146	葛飾遊馬	柳下芸者	肉筆画(絹本)	107.0×38.8
147	柳々居辰齋	太夫道中	肉筆画(絹本)	90.8×32.6
148	蹄齋北馬	年始あいさつ廻りの芸者	肉筆画(絹本)	82.7×33.7
149	葛飾逸馬	立美人	肉筆画(絹本)	92.5×30.5
150	鶴雲亭北山	雪の情景	肉筆画(紙本)	97.4×28.5
151	葛飾爲齋	赤穂浪士	肉筆画(紙本)	74.9×25.8
152	抱亭北鶯	五月節句幟	肉筆画(紙本)	42.5×61.2
153	高井鴻山	もののけ	肉筆画(絹本)	131.0×62.0

■北齋に魅せられたパリの浮世絵師アンリ・リヴィエール

154	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》扉絵	リトグラフ	21.5×27.0
155	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》エッフェル塔の建築現場	リトグラフ	21.5×27.0
156	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 建造中のエッフェル塔、トロカデロからの眺め	リトグラフ	21.5×27.0
157	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》塔の上部で	リトグラフ	21.5×27.0
158	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》バートーベン街	リトグラフ	27.0×21.5
159	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》グルネルの菜園より	リトグラフ	21.5×27.0
160	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》サン・ペール橋より	リトグラフ	27.0×21.5
161	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》コンフェランス河岸より	リトグラフ	21.5×27.0
162	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》ノートル・ダム寺院より	リトグラフ	21.5×27.0
163	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》クリシー大通りより	リトグラフ	21.5×27.0
164	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 ポワン・ドゥ・ジュール波止場から	リトグラフ	21.5×27.0
165	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》セーヌ川の祭、7月14日	リトグラフ	27.0×21.5
166	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》パッシー河岸より	リトグラフ	21.5×27.0
167	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》ラマルク街より	リトグラフ	21.5×27.0
168	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》ロシュシュアール街より	リトグラフ	27.0×21.5
169	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》パッシー河岸より、雨	リトグラフ	215×270
170	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 バトー・ムーシュ(遊覧船)にて	リトグラフ	21.5×27.0
171	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》グルネル河岸より	リトグラフ	21.5×27.0
172	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》アベス街より	リトグラフ	21.5×27.0
173	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》グルネル橋より	リトグラフ	21.5×27.0

174	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 屋根の上	リトグラフ	21.5×27.0
175	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 ブーローニュの森より	リトグラフ	21.5×27.0
176	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 コンコルド広場より	リトグラフ	21.5×27.0
177	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 シーニュ島より	リトグラフ	21.5×27.0
178	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 塔より	リトグラフ	21.5×27.0
179	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 オーステルリッツ橋より	リトグラフ	21.5×27.0
180	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 フレミエの大鹿の後ろより(トロカデロ)	リトグラフ	27.0×21.5
181	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 ジャヴェル河岸より(転轍手の小屋)	リトグラフ	21.5×27.0
182	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 バ・ムードン、古い共同洗濯場	リトグラフ	21.5×27.0
183	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 塔の配管工	リトグラフ	27.0×21.5
184	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 パッシー・シャルボニエ河岸より	リトグラフ	21.5×27.0
185	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 バ・ムードン駅より	リトグラフ	21.5×27.0
186	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 栈橋より	リトグラフ	21.5×27.0
187	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 トロカデロの公園より、秋	リトグラフ	21.5×27.0
188	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 川船	リトグラフ	21.5×27.0
189	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 塔のペンキ塗り	リトグラフ	27.0×21.5
190,191	アンリ・リヴィエール	《エッフェル塔三十六景》 序文	リトグラフ	21.5×27.0
192	アンドレ・マルタン	エッフェル塔 写真集	写真	27.0×28.0 (本)

※寸法は所蔵先のデータがある作品のみ記載

開館40周年記念

# 北 斎 展

世界が絶賛した浮世絵師  
―師とその弟子たち―

葛飾北斎〈富嶽三十六景 神奈川沖浪裏〉、〈富嶽三十六景 凱風快晴〉(いずれも部分)

2022.9月17日|土|—11月27日|日|

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日：月曜日[ただし9月19日(月/祝)、10月10日(月/祝)、11月7日(月)は開館]、9月20日(火)、10月11日(火)

観覧料：一般1,000(800)円、高大生600(400)円、中学生以下無料

\* ( )内は前売り、10名以上の団体料金。\* 障害者手帳をお持ちの方等は無料。

\* リピーター割引、旭川リンクリンクミュージアムによる割引など、お得な割引料金もあります。詳しくは旭川美術館までお問い合わせください。

■主催：北海道立旭川美術館、北斎展旭川市民実行委員会 ■共催：北海道新聞旭川支社  
■後援：旭川市、旭川市教育委員会、愛別町教育委員会、上川町教育委員会、鷹栖町教育委員会、当麻町教育委員会、  
美瑛町教育委員会、東川町教育委員会、東神楽町教育委員会、比布町教育委員会、NHK旭川放送局、旭川ケーブルテレビ「ポテト」、  
FMリバー、あさひかわ新聞、旭川商工会議所、旭川美術振興会  
■監修：中右坂(国際浮世絵学会常任理事) ■企画協力：ステップ・イースト

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 TEL0166-25-2577

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>

[@Asahikawa\\_Art](https://twitter.com/Asahikawa_Art)





葛飾北斎  
《百物語 こはだ小平二》



葛飾北斎  
《諸国瀧廻り 木曾海道小野ノ瀑布》



葛飾北斎  
《自画像》(肉筆画)



葛飾北明  
《手紙を読む美人図》(肉筆画)



アンリ・リヴィエール  
《エッフェル塔三十六景 建造中のエッフェル塔、トロカデロからの眺め》

# HOKUSAI

The World Acclaimed  
Ukiyoe Artist

葛飾北斎(1760〔宝暦10〕～1849〔嘉永2〕年)は、歌川広重・喜多川歌麿・東洲斎写楽らと並び、江戸時代後期に活躍した浮世絵の巨匠です。日本人ならば誰もが必ずや目にしているであろう“赤富士”、“波富士”をはじめ、その芸術は現代においても圧倒的な評価と人気を博しています。

90年近くに及ぶ波瀾万丈の生涯を歩んだ北斎は、70年余りの長い作画期にわたって幅広い分野に挑み続け、膨大な数の名作を世に送り出しました。大胆な構図を、巧みな線描と象徴的な色使いとともに仕上げたその作品は、魅力あふれる独自の芸術世界を築くとともに、多くの絵師たちにも影響をもたらしたのです。

本展では、二十歳のデビュー作となった役者絵や初期の美人画、西洋伝来の銅版画に触発されて制作した洋風画、その名を冠した絵手本「北斎漫画」、 「富嶽三十六景」などのシリーズもの、奇想あふれる妖怪絵などの代表作とともに、貴重な肉筆画を加えて展覧します。あわせて、葛飾北明ら北斎に師事した弟子たちや、フランスの画家リヴィエールが北斎へのオマージュとして手がけた連作もご紹介します。

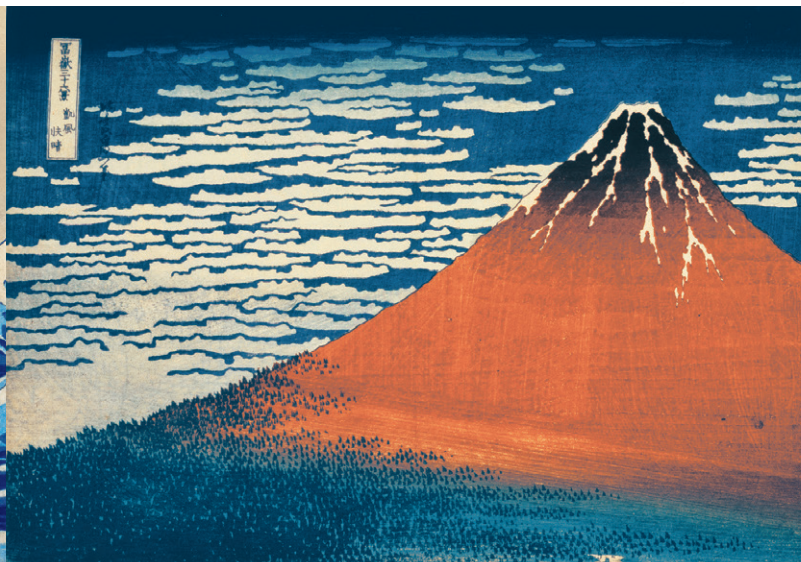
北斎芸術の全貌をご堪能ください。



葛飾北斎『北斎漫画・十編』より



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》



葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》

## 関連事業

### 中右瑛氏ギャラリートーク&講演会

国際浮世絵学会常任理事で本展監修者の  
中右瑛(なかう・えい)氏をお迎えします。

#### ■ギャラリートーク

日時:10月7日(金)午後3時～(約30分) 会場:当館第1展示室(要観覧券)

#### ■講演会【事前申込制】

日時:10月8日(土)午前10時30分～(約1時間30分)

会場:当館講堂(聴講無料、定員35名)

申込:8月4日(木)より電話(0166-25-2577)にて受付

\*休館日(月曜・月曜が祝日の場合、翌火曜)を除く、午前9時30分～午後5時の間にお電話ください。定員に達しだい、締め切らせていただきます。

### 30分でわかる!学芸員の見どころ解説

日時:9月23日(金・祝)、10月15日(土)、11月4日(金)、11月26日(土)  
各日午後2時～(約30分)

会場:当館講堂(聴講無料、定員35名)

\*表千家同門会旭川支部・旭川地区青年部によるお茶会、FMリバー  
パーソナリティ・マダムケロコさんによるトークなども予定しています。  
詳しくは、当館ホームページや事業ちらしにてお知らせします。

## 第2展示室のご案内

開館40周年記念

### こころ育む学び舎

—北海道教育大学旭川校—

Art by Faculty of Hokkaido University of Education,  
Asahikawa Campus

2022(令和4)年9月17日(土)～11月27日(日)

北海道教育大学旭川校の前身・北海道旭川師範学校が1923(大正12)年に開校して100年。教員を養成するとともに、地域の文化を支え、多くのアーティストを輩出してきました。後進の指導に尽力した作家たちの作品を紹介します。



根守悦夫  
(Kotan Koro Kamui)  
1972(昭和47年) 当館蔵

観覧料:一般260(210)円  
高大生150(110)円

\* ( )内は10名以上の団体料金。

\*中学生以下、65歳以上の方、土曜日の高校生は無料。

\*芸術週間[11月1日(火)～11月7日(月)]はどなたも無料。

## 北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art



### 交通案内

- 徒歩:JR旭川駅から約20分。
- バス:JR旭川駅北側の1条通の4番バス停(1条8丁目)から3・23・24・33・35番のバスに乗車。最寄りのバス停は(4条4丁目)(3・33・35番)、徒歩5分。または(8条西1丁目)(23・24番)、徒歩3分。また、バス停(常磐公園前)を経由するバス(バス停から徒歩7分)もご利用いただけます。
- タクシー:JR旭川駅前から約10分、800円程度。
- 駐車場:常磐公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)をご利用いただけますが、台数に限りがあります。

\*イベントの予定は変更となることがあります。  
当館ホームページ等でご確認ください。  
\*新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします。

開館 40 周年記念 旭川市市制施行 100 年記念

## モダンの芸術 100 年前のヨーロッパ、日本、旭川

Art and Craft from the 1920s: Europe, Japan, Asahikawa

会 期：12 月 17 日(土)～2023 年 3 月 12 日(日)

主 催：北海道立旭川美術館

共 催：北海道新聞旭川支社

後 援：旭川市市制施行 100 年記念事業実行委員会

今から 100 年前の 1920 年代。第一次と第二次世界大戦に挟まれたこの時代、芸術の都として人々を惹きつけていたパリでは、美術のみならず音楽、文学、映画、工芸などさまざまな芸術が花開いた。日本からも多くの画家が渡欧するようになり、ヨーロッパ美術の動向は日本画壇に大きな影響を与えた。

北海道では、はじめて全道規模の公募展が創立し、三岸好太郎など道産子の画家たちが日本画壇で頭角をあらわし、旭川では、高橋北修をはじめとする絵画好きの青年たちが初の画会を立ち上げ、道内の画家たちと交流し新たな美術の発信地となるべく奮闘した。

本展は、ヨーロッパ（フランス）、日本、旭川で 100 年前に展開された芸術を紹介。エコール・ド・パリの作品を数多く収蔵する北海道立近代美術館を中心に、北海道立三岸好太郎美術館（mima）と当館コレクションから、絵画・工芸等約 90 点によって、ジャンルや国を超えた「モダンの芸術」を振り返った。

特にガレやミュレル兄弟などアール・ヌーヴォーからアール・デコにかけてのガラス工芸作品を展示したコーナーは好評であった。

観覧者数は 3,127 名だった。

### ■関連事業

道銀文化財団 Art Ensemble #17 北海道立旭川美術館開館 40 周年記念コンサート

「バラエティ豊かな打楽器が描く音の世界」

12 月 17 日(土) 午前 11 時～、午後 2 時～（各回約 40 分）

出 演：石川 千華氏（マリンバ）、白戸 達也氏（打楽器）

主 催：北海道立旭川美術館、公益財団法人道銀文化財団

会 場：当館ロビー（入場無料）

参加人数：計 106 名

[講演会「工芸・木工芸 黒田辰秋から現代まで」]

1 月 21 日(土) 午後 2 時～（約 90 分）

講 師：諸山 正則氏（工芸史家・前東京国立近代美術館主任研究員）

会 場：講堂（事前募集制、聴講無料）

参加人数：30名

[講演会「カクテル都市 パリの狂宴」]

2月4日(土) 午後2時～(約90分)

講師：柴勤氏(前小川原脩記念美術館長)

会場：講堂(事前募集制、聴講無料)

参加人数：29名

[30分でわかる!学芸員の見どころ解説]

講師：津田しおり(学芸員)

会場：講堂(事前募集制、聴講無料)



1月7日(土) 午後2時～(約30分)

参加人数：12名



2月18日(土) 午後2時～(約30分)

参加人数：10名

[教員のための鑑賞研修]

1月7日(土) 午前10時～(約60分)

講師：津田しおり(学芸員)

会場：講堂、第1展示室(事前募集制、参加無料)

参加人数：1名

[オリエンテーション]

講師：津田しおり(学芸員)

会場：講堂

実施回数：2回

参加者数：28名

(希望団体対象の解説、予約制、参加無料)

■主な新聞記事等

あさひかわ新聞 11/29

北海道新聞 記事：11/30, 12/18, 1/11, 1/15, 2/2 広告：11/28, 11/29, 11/30, 12/1, 12/3, 12/3(夕), 12/5, 12/6, 12/7, 12/10, 12/10(夕), 12/14, 12/15, 12/17, 12/18, 12/19, 12/21, 12/22, 12/8(ななかまど), 12/23, 12/24, 12/26, 12/27, 12/28, 12/30, 12/31, 1/4, 1/6(ななかまど), 1/9, 1/10, 1/11, 1/13,

1/14, 1/15, 1/16, 1/17, 1/19, 1/20(ななかまど), 1/21, 1/23, 1/25, 1/27, 1/28, 1/31, 1/31(夕), 2/1,  
2/2, 2/3, 2/5, 2/6, 2/6(夕), 2/7, 2/7(夕), 2/8, 2/9, 2/11, 2/13, 2/14, 2/15(夕), 2/16, 2/18, 2/19,  
2/20, 2/22, 2/23, 2/24, 2/24(ななかまど), 2/25, 2/26, 2/27, 2/28, 3/1, 3/2, 3/3, 3/5, 3/6, 3/7,  
3/10(ななかまど)

北海道通信 11/30, 12/23, 12/26, 1/12, 1/16, 1/31, 3/1

毎日新聞 1/18

#### ■広報印刷物

ポスター：B2 縦、マットコート 135 kg、片面カラー、1,400 枚

チ ラ シ：A4 縦、マットコート 110 kg、両面カラー、15,000 枚

観 覧 券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券) 縦 140×横 60mm

マットコート 90 kg、片面カラー、9,100 枚

デザイン：やはずの よしゆき (株式会社 20 パーセント)

製 作：須田製版株式会社

## モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先
エコール・ド・パリの画家たち						
1	ジャン=エミール・ラブルール	戦線での7月14日	1917-20	エッチング、紙	23.0×25.3	
2	ジャン=エミール・ラブルール	海水浴場	1928	エングレーヴィング、紙	15.9×11.4	
3	ジャン=エミール・ラブルール	市での射撃	1921頃	エングレーヴィング、紙	26.7×22.6	
4	ジュール・パスキン	白いリボンの少女	1928	油彩、キャンバス	92.0×73.0	
5	ジュール・パスキン	花束をもつ少女	1925-26	油彩、キャンバス	80.0×64.0	
6	エルミース・ダヴィッド	パリ郊外の干し草積み	1922	油彩、紙	87.0×69.4	
7	モーリス・ユトリロ	モンルージュの通り(セーヌ)	1910頃	油彩、キャンバス	57.5×79.3	
8	キース・ヴァン・ドンゲン	ボドリ・ダッソン侯爵夫人	1919	油彩、キャンバス	130.5×97.5	
9	アンドレ・ドラン	『パンタグリユエル挿画集』 ヴィドゥグレン	1941-43	木版、紙	34.3×28.0	
10	アンドレ・ドラン	『パンタグリユエル挿画集』 パドベック	1941-43	木版、紙	34.3×28.0	
11	アンドレ・ドラン	『パンタグリユエル挿画集』 メッサジェ	1941-43	木版、紙	34.3×28.0	
12	ペール・クローグ	肘掛け椅子の女	1925	油彩、キャンバス	81.0×60.0	
13	マリー・ローランサン	婦人像	1920	油彩、キャンバス	73.5×61.0	
14	ハイム・スーチン	祈る男	1921頃	油彩、キャンバス	94.0×51.0	
15	モーリス・ド・ヴラマンク	風景	1920代頃	油彩、キャンバス	73.5×93.0	
16	アンドレ・ドラン	猫と裸婦	1936-38頃	油彩、キャンバス	108.3×150.5	
17	ジョルジュ・ルオー	聖なる顔	1939	油彩、板に貼った紙	56.0×41.0	
18	キスリング	籠、パイナップル、リンゴ、メロン	1922	油彩、キャンバス	100.0×81.0	
19	キスリング	オランダの娘	1928	油彩、キャンバス	100.4×73.4	
20	マルク・シャガール	『ラ・フォンテーヌの寓話』 死と木こり	1927-30 刊行：1952	エッチング、アクアチント、ドライポイント、紙	29.5×24.0	
21	マルク・シャガール	『ラ・フォンテーヌの寓話』 木こりとメルキュール	1927-30 刊行：1952	エッチング、アクアチント、ドライポイント、紙	30.3×23.5	
22	藤田 嗣治	家族の肖像	1954(昭和29)	油彩、ボード	17.5×12.5	



23	パブロ・ピカソ	『メタモルフォーズ』	1930-31 (刊行：1931)	エッチング、紙	32.5×25.5
24	パブロ・ピカソ	夜、少女に導かれる盲目のミノタウロス	1934	アクアチント、スクレーパー、ドライポイント、エンブレイヴィング、紙	24.7×34.7
25	パウル・クレー	巡査と贈物	1929	ペン、紙	30.5×44.0
<b>アール・デコのガラス</b>					
26	ルイ・コム フォート・ティ ファニイ	ランプ	1910頃-20頃	ガラス：虹彩	20.4×39.5
27	ミュレル兄弟	ランプ	1920頃	ガラス、鉄：ヴィトリフィカシオン	13.0×42.0× 53.0他
28	ガレ工房	プラム文花器	1925-1930頃	被せガラス、型吹き、エッチング	27.2×32.5
29	ガレ工房	湖水風景文花器	1920代	ガラス：被せガラス・型吹き・エッチング	31.5×67.0
30	ガレ工房	花文花器	1925-30頃	ガラス：被せガラス、スフレ、エッチング	18.5×24.2
31	ドームとルイ・マジョレル	鉄棒吹込花器	1922頃	ガラス：斑文装飾・鉄棒吹込み	27.5×26.0
32	ドーム	鹿文花器	1925-30頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング	33.0×39.5
33	ドーム	樹木文花器	1935	ガラス：型吹き、エッチング	27.0×27.0
34	シュネデル工房	幾何文花器	1920年代	ガラス：斑文装飾、被せガラス、エッチング	58.5×21.0
35	シュネデル工房	花文花器	1920頃	ガラス：被せガラス、斑文装飾、エッチング、エンブレイヴィング	13.5×36.0
36	シュネデル工房	斑文花器	1920頃	ガラス：斑文ガラス	12.5×30.5
37	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ・勝利	型：1928	ガラス：型押し	11.7×25.0× 19.3
38	ルネ・ラリック	貝殻文鉢	1920年代	ガラス：型押し	13.0×5.0
39	ルネ・ラリック	花器・バックカスの巫女	型：1927	ガラス：型押し	21.0×24.9
40	ルネ・ラリック	スザンナ	型：1925	ガラス：型押し	5.5×18.6× 22.8
41	モーリス・マリノ	人物文扁壺	1920年代	ガラス：エナメル彩	9.0×19.8× 23.1
42	マリウス=エル ネスト・サビノ	アネモネ文花器	1920年代	ガラス：型吹き	23.0×18.8
43	ガブリエル・アル ジイ=ルソー	木の葉文蓋物	1925-30頃	ガラス：パート、ド、ヴェール	9.5×8.0

44	ガブリエル・ア ルジエールソー	けし文碗	1925頃	ガラス：パート、 ド、ヴェール	11.5×7.5
45	エードヴァル ド・ハルド／オ レフォッシュ社 制作	鉢・花火	デザイン:1921 制作:1927頃	ガラス：型吹き、 エングレーヴィン グ	28.0×21.0
46	シーモン・ガー テ／オレフォッ シュ社 制作	皿付鉢・ダイアナ	デザイン:1920 制作:1926	ガラス：エング レーヴィング	16.6×22.0× 2.0他
47	岩田 藤七	水指・雲間	1975(昭和50)	ガラス：宙吹き	22.3×19.0
48	岩田 藤七	色替舟虫手花器	1935(昭和10)	ガラス：宙吹き、 ホットワークによ る装飾	19.2×14.4× 25.0
49	各務 鑛三	鉢・馬の目	1935(昭和10)頃	ガラス：カット、 エングレーヴィン グ	36.5×15.2
50	各務 鑛三	花器	1929(昭和4)	ガラス：被せガラ ス、宙吹き、カッ ト、手磨りによる つや消し	22.8×37.9
51	各務 鑛三	鹿文花器	1948(昭和23)	ガラス：宙吹き、 エングレーヴィン グ	11.5×22.0

#### 大正・昭和初期の日本、旭川

52	本間 紹夫	1925年頃の札幌の様子	1925(大正14)頃	映像／1分14秒	個人
53	三雲 祥之助	サンシール・ラ・ポピー風景	1930(昭和5)	油彩、キャンバス	49.2×60.6
54	工藤 三郎	教会堂のある風景	1920-23(大正9- 12)	油彩、キャンバス	80.3×60.6
55	工藤 三郎	ピアンクール(セーヌ河)	1920(大正9)	油彩、キャンバス	130.0×162.0
56	岩船 修三	フランス小町一隅(城門)	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	162.2×130.0
57	岡田 謙三	野外習作	1935(昭和10)	油彩、キャンバス	127.4×191.4
58	荒井 龍男	白い掌	1937(昭和12)頃	油彩、キャンバス	99.8×80.4
59	小寺 健吉	水辺	1929(昭和4)	油彩、キャンバス	192.5×162.5
60	高島 達四郎	丘からの眺め	1923(大正12)	油彩、キャンバス	90.5×73.0
61	片岡 球子	鳩と少女	1934(昭和9)	紙本彩色	175.0×218.0
62	久本 春雄	編物する女	1922(大正11)	絹本彩色	146.0×73.6

#### 民 藝

63	棟方 志功	『善知鳥版画巻』夜訪の柵	1938(昭和13)	木版、紙	31.0 ×32.0
64	芹沢 銈介	『中国忍者伝 十三妹挿絵 集』(1)	1965(昭和40)、 刊行1986(昭和61)	型染、紙	14.0 ×17.0

65	芹沢 銑介	『新版 絵本どんきほうて』 西国らまんちやの里のどんき ほうて	刊行：1976(昭和 51)	型染、紙	22.1 × 29.0	
66	バーナード・ リーチ	掻き落とし壺	不詳	陶	15.5 × 26.7	
67	河井 寛次郎	呉須辰砂花文扁壺	不詳	陶	18.6 × 11.8 × 21.0	
68	黒田 辰秋	神代樺彫文飾棚	1974(昭和49)	ケヤキ(埋もれ木)	148.0 × 44.0 × 91.0	北海道立旭川美術館

## 創作版画と新版画

69	棟方 志功ほか	版画誌『黒と白』第4号	1937(昭和12)	木版、紙	20.5 × 12.5	
70	恩地 孝四郎	抒情一私は信ずる	1932(昭和7)	木版、紙	19.8 × 12.1	
71	橋口 五葉	神戸の宵月	1920(大正9)	木版、紙	28.7 × 45.2	
72	山村 耕花	踊り・上海ニューカルトン所 見	1924(大正13)	木版、紙	41.2 × 28.5	
73	伊東 深水	『新美人十二姿』大島の女	1922(大正11)	木版、紙	42.8 × 26.0	
74	小早川 清	ほろ酔い	1930(昭和5)	木版、紙	52.0 × 30.0	
75	小早川 清	髪	1933(昭和8)頃	木版、紙	40.5 × 25.0	
76	鳥居 言人	髪梳き	1929(昭和4)	木版、紙	45.6 × 29.5	
77	三岸 好太郎	少女の像	1925(大正14)	油彩、キャンバス	53.4 × 45.5	北海道立三岸好太郎 美術館
78	三岸 好太郎	道化	1930-1931 (昭和5-6)頃	油彩、キャンバス	73.3 × 54.8	北海道立三岸好太郎 美術館
79	三岸 好太郎	金蓮花	1932(昭和7)	油彩、キャンバス	53.0 × 45.3	北海道立三岸好太郎 美術館
80	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙	30.2 × 22.8	北海道立三岸好太郎 美術館
81	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』より 「雲の上の蛾」	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙 (複製)	30.2 × 22.8	北海道立三岸好太郎 美術館
82	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』より 「海と射光」	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙 (複製)	30.2 × 22.8	北海道立三岸好太郎 美術館
83	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』より 「ヒマラヤ杉と蝶」	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙 (複製)	30.2 × 22.8	北海道立三岸好太郎 美術館
84	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』より 「ヴィーナスと蝶」	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙 (複製)	22.8 × 30.2	北海道立三岸好太郎 美術館
85	三岸 好太郎	筆彩素描集『蝶と貝殻』より 「海洋を渡る蝶」	1934(昭和9)	印刷、手彩色、紙 (複製)	22.8 × 30.2	北海道立三岸好太郎 美術館
86	小山 昇	作品	1937(昭和12)頃	油彩、キャンバス	72.7 × 90.9	

87	高橋 北修ほか	画帖	1925(大正14)頃	墨、水彩、色紙	21.0×41.9	個人
88	能勢 眞美ほか	画帖	1925(大正14)頃	墨、水彩、色紙	21.0×14.9	個人
89	本郷 新ほか	色紙画	1925(大正14)頃	墨、水彩、色紙	27.3×24.2	個人
90	小川原 脩	男と白鳥	1939(昭和14)	油彩、キャンバス	145.5×112.1	

#### 旭川の美術

91	高橋 北修	ことぢ像	1924(大正13)	油彩、キャンバス	60.6×45.5	北海道立旭川美術館
92	関 兵衛	冬	1939(昭和14)	油彩、板	38.0×46.0	北海道立旭川美術館
93	秋田 義一	風景	1922(大正11)	油彩、キャンバス	45.5×52.7	北海道立旭川美術館
94	上野山 清貢	水族館	1937(昭和12)頃	油彩、キャンバス	91.0×72.8	北海道立旭川美術館
95	小浜 亀角	猛禽	1935(昭和10)頃	絹本彩色	51.8×164.6	北海道立旭川美術館
96	朝倉 力男	河畔吹雪去る	1946(昭和21)	油彩、キャンバス	90.3×116.7	北海道立旭川美術館
97	山口 信太郎	三月の雪	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	114.0×88.0	北海道立旭川美術館

---

※所蔵先に記載のない作品は北海道立近代美術館蔵

開館40周年記念

旭川市市制施行100年記念

# モダンの芸術

100年前のヨーロッパ、日本、旭川



Art and Craft from the 1920s:  
Europe, Japan, Asahikawa



2022.12月17日|土| - 2023.3月12日|日|

開館時間：午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）

休館日：月曜日[ただし1月9日を除く]、1月10日(火)、年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料：一般800(600)円、高大生500(400)円、小中生300(200)円

\* ( )内は前売、10名以上の団体料金。 \* 本展の前売券は当館で2022年12月16日(金)まで販売しています。

\* 障害者手帳をお持ちの方等は無料。

\* リピーター割引、旭川リンクリンクミュージアムによる割引料金など、お得な各種割引料金もあります。

詳しくは旭川美術館までお問い合わせください。

■主催：北海道立旭川美術館 ■共催：北海道新聞旭川支社 ■後援：旭川市市制施行100年記念事業実行委員会

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 TEL0166-25-2577

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>

@Asahikawa\_Art



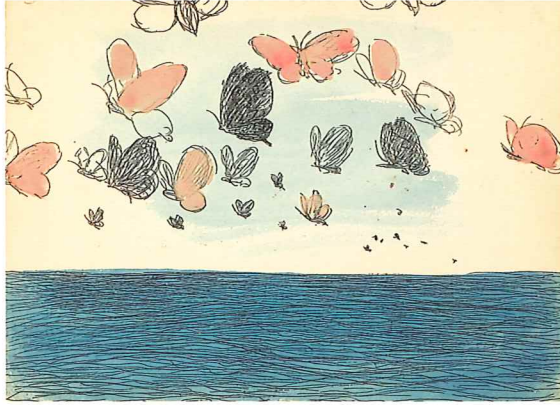
# モダンの芸術

100年前のヨーロッパ、日本、旭川

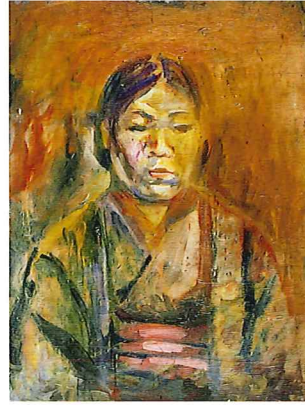
Art and Craft from the 1920s: Europe, Japan, Asahikawa



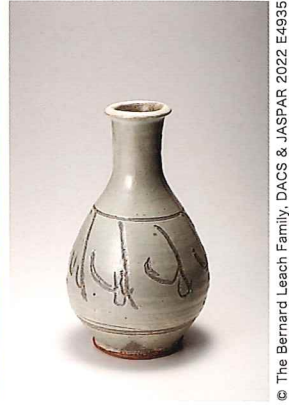
ジュール・バスキン《花束をもつ少女》1925-26年  
北海道立近代美術館蔵



三岸好太郎 筆彩素描集『蝶と貝殻』より《海洋を渡る蝶》1934年  
北海道立三岸好太郎美術館蔵



高橋北修《こごれ像》1924年頃  
北海道立旭川美術館蔵



バーナード・リーチ《遙き落とし壺》年代不詳  
北海道立近代美術館蔵

今から100年前の1920年代。第一次と第二次世界大戦の間というこの時代、芸術の都として人々を惹きつけていたパリでは、美術のみならず音楽、文学、映画、工芸などさまざまな芸術が花開きました。このとき活躍した「エコール・ド・パリ(パリ派)」と呼ばれた画家たちは、多くが新たな表現を求めパリに集ったフランス国外からの異邦人です。日本からも多くの画家が渡欧するようになり、ヨーロッパ美術の動向は日本画壇に大きな影響を与えています。北海道における1920年代は、はじめて全道規模の公募展が創立し、三岸好太郎など道産子の画家たちが日本画壇で頭角をあらわしていききました。旭川では、高橋北修をはじめとする絵画好きの青年たちが初の画会を立ち上げ、道内の画家たちと交流し新たな美術の発信地となるべく奮闘しました。

本展は、ヨーロッパ(フランス)、日本、旭川で100年前に展開された芸術を紹介。エコール・ド・パリの作品を数多く収蔵する北海道立近代美術館を中心に、北海道立三岸好太郎美術館(mima)と当館コレクションから、絵画・工芸など約90点を展覧し、ジャンルや国を超えた「モダンの芸術」を振り返ります。

※作品保護のため、一部版画作品の展示替えを行います(前期:12月17日～1月29日、後期:1月31日～3月12日)

## 関連事業

お申し込み・お問い合わせ 旭川美術館へ

TEL 0166-25-2577(開館日のみ午前9時30分～午後5時)

○道銀文化財団 Art Ensemble #17  
北海道立旭川美術館開館40周年記念コンサート  
「バラエティ豊かな  
打楽器が描く音の世界」  
日時:12月17日(土)  
午前11時～、午後2時～(いずれも約40分)  
出演:石川 千華(マリンバ)、  
白戸 達也(打楽器)  
主催:北海道立旭川美術館  
公益財団法人道銀文化財団  
会場:当館ロビー(各回定員40名、入場無料)  
申込:11月1日(火)受付開始  
※当日は立ち席でもお聴きいただけます。

○講演会「カクテル都市 パリの狂宴」  
日時:2月4日(土) 午後2時～(約90分)  
講師:柴 勤(前小川原備記念美術館長)  
会場:当館講堂(定員35名、聴講無料)  
申込:12月20日(火)受付開始

○冬のウッディ★工作アトリエ2023  
「親子で木のおもちゃづくり」  
日時:1月14日(土)午後2時～4時、  
1月15日(日)午前10時～12時  
講師:佐貫 友紀(森の美術館「木夢」  
学芸員、木工指導員)  
会場:当館講堂、第1・2展示室  
対象:小学生(保護者同伴)  
各回10組20名  
参加料:1組1,200円  
(材料費、観覧料、保険料等含む)  
詳細はホームページをご覧ください。

○30分でわかる!  
学芸員の見どころ解説  
日時:1月7日(土)、2月18日(土)  
午後2時～(約30分)  
講師:当館学芸員  
会場:当館講堂(各回定員35名、聴講無料)

自由参加

## 同時開催 第2展示室

開館40周年記念  
旭川現代アート事始め

1970～80年代、旭川では公募展にかわる作品発表の場を求める作家たちにより様々な美術運動が展開。実験的な作品やパフォーマンスが発表されました。本展では、そうした旭川の熱い時代の記憶を蘇らせます。



—ノゾシノリ(WATER WORK E-851)  
1985年 当館蔵

観覧料/一般260(210)円、  
高大生150(110)円、  
中学生以下、65歳以上無料  
\*( )内は10名以上の団体料金。  
\*高校生は土曜日ならびに学校の活動での利用は無料。  
\*障害者手帳をお持ちの方等は無料。



## 交通案内

- 徒歩:JR旭川駅から約20分。
  - バス:JR旭川駅北側の1条通の8番バス停(1条8丁目)から3・23・24・33・35番のバスに乗車。最寄りのバス停は(4条4丁目)(3・33・35番)、徒歩5分。または(8条西1丁目)(23・24番)、徒歩3分。また、バス停(常盤公園前)を経由するバス(バス停から徒歩7分)もご利用いただけます。
  - タクシー:JR旭川駅から約10分。800円程度。
  - 駐車場:常盤公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)をご利用いただけますが、台数に限りがあります。
- \*イベントの予定は変更となることがございます。  
\*ホームページ等でご確認ください。  
\*新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします。

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常盤公園内 TEL0166-25-2577

## 表面図版

上段左から片岡球子《鳩と少女》1934年、ミュレル兄弟《ランブ》1920年頃  
中段左からキース・ヴァン・ドンゲン《ボドリ・ダッソン侯爵夫人》1919年 © ADAGP, Paris & JASPAP, Tokyo, 2022 E4935、  
小早川清《ほる酔い》1930年、ルネ・ラリック《ラジエータ・キャップ・勝利》1928年(型)  
下段左からクリスリング《オランダの娘》1928年 ※いずれも北海道立近代美術館蔵

## 4-2 所蔵品展

### 開館 40 周年記念

## 「木の造形」 クロニクル

### The Beauty of Wood

当館は「木の造形」の収集をコレクションの柱の一つとしてきた。板津邦夫の《風のなかの彫刻》(1982 [昭和 57] 年道立近代美術館から管理替え) を端緒として、道内外の優れた彫刻や工芸を収集するとともに、「木の椅子は語る」展 (84 年)、「はこで考える—あそびの木箱」展 (87 年、92 年)、「木の造形・旭川大賞展」(96 年) などの独自の展覧会を開催。「木の造形」の振興を図り、コレクションの充実に努めてきた。令和 4 年 3 月末までに当館「木の造形」コレクションは 250 点以上を数える。

本展は、開館 40 周年を記念し、当館が誇る「木の造形」コレクションの 40 年を振り返る機会として企画した。彫刻と工芸あわせて 23 点を展覧し、「木の造形」の多彩さとともに、豊かなコレクションを築いてきた当館の歩みをご覧いただいた。

会 期 : 4 月 23 日 (土) ~ 6 月 26 日 (日)

主 催 : 北海道立旭川美術館

#### ■主な新聞記事等

北海道通信 4/28, 5/3

### 開館 40 周年記念 旭川市市制施行 100 年記念

## 旭川の美術 100 年 第二部

### Asahikawa's Art During the Last Hundred Years, Part II

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館は、旭川で少年時代を過ごした中原悌二郎を顕彰する美術館であり、中原悌二郎賞受賞作や中原にゆかりのある日本を代表する彫刻作家作品を数多く所蔵している。第 1 展示室と連動して開催した本展では、中原悌二郎賞受賞作に関連した作品 13 点と当館収蔵作品 4 点をあわせて紹介した。

会 期 : 7 月 9 日 (土) ~ 9 月 4 日 (日)

主 催：北海道立旭川美術館  
共 催：北海道新聞旭川支社  
後 援：旭川市市制施行 100 年記念事業実行委員会

■主な新聞記事等

北海道通信 7/1, 7/29, 8/31

開館 40 周年記念

こころ育む学び舎ー北海道教育大学旭川校ー

Art by Faculty of Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus

北海道教育大学旭川校の前身にあたる北海道旭川師範学校が 1923（大正 12）年に開校して 100 年。北海道の教育の一端を支えてきた同校は、教員を養成することはもちろん、地域の文化振興や活力の向上に寄与してきた。本展は、旭川の美術振興に貢献してきた大学の歩みを振り返るとともに、美術教員として後進を育てた指導者たち、そして現在も同校に関わる作家たちとあわせて 13 名の作品を紹介した。

会 期：9 月 17 日（土）～11 月 27 日（日）  
主 催：北海道立旭川美術館  
後 援：北海道教育大学旭川校  
協 力：北海道立旭川美術館ボランティア常磐会、北海道教育大学六稜会

■関連事業

[講演会「北海道教育大学旭川校 美術科の歩みとその学び舎」]

10 月 22 日（土）午後 2 時～（約 60 分）

講 師：八重樫 良二氏（北海道教育大学旭川校特任教授）

会 場：講堂（事前募集制、聴講無料）

参加人数：27 名

[ギャラリートーク①]

11 月 5 日（土）午後 2 時～（約 60 分）

講 師：八重樫 良二氏（北海道教育大学旭川校特任教授）、大石 朋生氏（北海道教育大学旭川校教授）、  
岩永 啓司氏（北海道教育大学旭川校准教授）

会 場：当館第 2 展示室

参加人数：20 名



[ギャラリートーク②]

11月6日(日)午後2時～(約30分)

講師：寺田 榮氏(彫刻家、北海道教育大学旭川校名誉教授)

会場：当館第2展示室

参加人数：20名

#### ■主な新聞記事等

北海道新聞 10/21, 10/23

北海道通信 9/13, 9/16, 9/27, 9/28, 10/11, 11/2

## 開館40周年記念

# 旭川現代アート事始め

Pioneers of Contemporary Art in Asahikawa: 1970s and 1980s

旭川では、戦後まもない頃から、自由と平等を標榜し無鑑査展を企図して1946(昭和21)年に「北海道アンデパンダン美術協会」(のち「北海道アンデパンダン」に改称)が発足し、1955(昭和30)年には若手の作家たちが前衛的な表現を目指して「グループ<sup>おうど</sup>黄土」(のち「**ŌDO**」に改称)を結成するなど、いち早く現代を見据える美術動向が開花した。

やがて1970年代に入ると、こうした実りを一つの源流としながら、市内の複数の文化活動が合流したり、道内外広域の美術界と関わり合うなどのかたちで、新たな現代美術が展開。公募展に限らず、多様な表現の場を求める作家たちにより、さまざまな展覧会やシンポジウム等が行われ、実験的な作品やパフォーマンスが繰り広げられるようになった。1976(昭和51)年の「アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム」、1982(昭和57)年から5年間ほど続いた「アートラボ」の活動、1985(昭和60)年の「CIRCULATION '85」展などがその一例として挙げられる。こうして旭川は80年代にかけて、活気づく時代の後押しも受けながら、道内の現代美術文化を担う熱い拠点の一つとなっていた。

本展では当館所蔵作品、資料のなかから、当時の運動に関わった作家たちによるおよそ40点を展覧し、1970～80年代を中心とした旭川の熱気あふれる美術動向の一端を振り返った。

会期：12月17日(土)～2023年3月12日(日)

主催：北海道立旭川美術館

#### ■主な新聞記事等

北海道新聞 1/19

北海道通信 11/30, 12/23, 1/12

## 「木の造形」クロニクル 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	舟越 桂	夜は夜に	2003(平成15)	クス、大理石、アクリル絵具	57.0×39.0×97.0
2	板津 邦夫	風のなかの彫刻	1965(昭和40)	ニレ、アスファルト	190.0×73.0×119.0
3	砂澤 ビッキ	ニツネカムイ	1988(昭和63)	カツラ、クルミ、タモ	36.0×48.0×122.0
4	砂澤 ビッキ	四季の面	1988(昭和63)	ニレ(埋もれ木)、カツラ、ナラ	63.0×46.0×242.5 35.0×21.5×45.0 8.5×2.4×108.5
5	菅 木志雄	景間-E	1991(平成3)	サワラ、スギ、石	217.0×165.0×141.0
6	三宅 一樹	素脚詞Ⅶ	2003(平成15)	カヤ、クス	70.0×200.0×70.0
7	戸谷 成雄	湿地帯	1989(平成元)	米ツガ、アクリル絵具	121.0×30.0×162.0
8	高橋 三太郎	AFRICAN PADAUK	1983(昭和58)	アフリカンパドック、ナラ	40.0×42.0×76.0
9	吉田 幸男	神秘	1983(昭和58)	ニレ(埋もれ木)	90.0×46.0×92.5
10	須田 賢司	GORON! I	1981(昭和56)	タモ、キリ	25.0×15.0×15.0
11	須田 賢司	GORON! II	1981(昭和56)	タモ、チーク	40.0×15.0×15.0
12	丹野 則雄	薬一ひこばえ	1992(平成4)	黒柿、ローズウッド、メープル、ウレタンオイル塗装/カリン、パドック、メープル、ウレタンオイル塗装	14.0×13.0×7.0 9.0×12.0×10.0
13	中井 啓二郎	1, 2がなくて3, 4, 5, 6	1986(昭和61)	ウォールナット、カリン、ニレ、シラカバ、カバ、ローズウッド	8.0×7.5×19.0 9.0×9.0×20.0 10.0×10.0×22.5 12.0×9.2×7.5 12.0×9.2×10.0
14	阿部 典英	羽が生えた黄色人	1986(昭和61)	クルミ、シュロ、黒鉛	62.0×26.0×40.0
15	桂 ゆき	作品	1979(昭和54)	コルク、板	162.0×131.0×13.0
16	山田 克己	イーグル・チェアー	1983(昭和58)	ナラ、ローズウッド	36.0×40.0×80.0
17	藤井 忠行	椅子	1983(昭和58)	クルミ、エンジュ	50.0×115.5×142.0
18	笠原 たけし	無題	1996(平成8)	クス	37.0×39.0×95.0
19	本田 明二	マントー風	1987(昭和62)	カツラ	45.0×49.5×144.5
20	土屋 仁応	麒麟	2017(平成29)	クス、水晶、アクリル絵具、油彩	40.0×35.0×73.0
21	デザイン：五十嵐久枝 制作：大門巖、(株)匠工芸	君の椅子2020	2020(令和2)	ミズナラ	32.5×26.0×41.0
22	デザイン：河東梨香 制作：大門巖、大門和真、(株)匠工芸	君の椅子2021	2021(令和3)	ミズナラ	27.3×28.2×45.5

デザイン：ス テューレ・ 23 エング	君の椅子2019	2019 (平成31/令和 元)	ミズナラ	32.5×26.0×41.0
制作：服部勇 二、(株)匠工芸				

※作品はすべて当館蔵

## 旭川の美術100年 第二部 出品目録

1 中原 悌二郎	平櫛田中像	1919(大正8)	ブロンズ	26.0×19.5×14.0
2 オーギュスト・ ロダン	ジャン・デールの裸体習作	1886-89頃	ブロンズ	103.0×30.0×25.0
3 荻原 守衛	坑夫	1907(明治40)	ブロンズ	47.0×46.5×33.5
4 舟越 保武	原の城	1972(昭和47)	ブロンズ	192.0×55.0×57.0
5 柳原 義達	道標・鳩	1974(昭和49)	ブロンズ	41.0×51.0×28.0
6 佐藤 忠良	カンカン帽	1975(昭和50)	ブロンズ	60.0×51.5×40.0
7 建畠 覚造	CLOUD-4	1981(昭和56)	ジュラルミン	92.0×70.0×12.0
8 建畠 覚造	CLOUD-36	1984(昭和59)	合板、木	120.0×17.0×56.0
9 吾妻 兼治郎	YU-847	1999(平成11)	ブロンズ	128.0×79.0×37.0
10 戸谷 成雄	山津波	1988(昭和63)	彩色(アクリル絵 具)、米ツガ	310.0×31.0×215.0
11 戸谷 成雄	漢詩的-II	2014(平成26)	木、灰、アクリル	可変20ピース
12 三沢 厚彦	Animal 2017-05	2017(平成29)	楠、油彩	92.0×29.5×876.0
13 三沢 厚彦	Animal 2000-02	2000(平成12)	油彩、クス	177.0×65.0×196.0
14 舟越 桂	午後にはガンター・グローヴにいる	1988(昭和63)	彩色(アクリル絵 具)、クス、大理石	66.0×38.0×183.0
15 舟越 桂	それだけの冬	1997(平成9)	楠(くすのき)に彩 色、大理石、ブリキ	87.0×37.0×38.0
16 舟越 桂	点の中の距離	2003(平成15)	楠(くすのき)に彩 色、大理石	91.0×55.0×30.0
17 保井 智貴	untitled	2004(平成16)	漆、麻布、螺鈿、岩 絵具、スペクトライ ト、大理石	160.0×44.0×28.0

※3, 8, 14は当館蔵、他は中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

## こころ育む学び舎-北海道教育大学旭川校- 出品目録

1 上條 雄也	虚飾の鳥	1968(昭和43)	油彩、キャンバス	145.5×97.0
2 上條 雄也	人(F)	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	193.5×130.3
3 小浜 亀角	海嘯による枯林	1967(昭和42)	紙本彩色	223.0×170.0
4 望月 正男	入り陽	1972(昭和47)	油彩、キャンバス	112.1×162.1
5 朝倉 力男	溪谷の冬	1971(昭和46)	油彩、キャンバス	112.1×145.5
6 板津 邦夫	彫刻のある風景 13, XI, '64	1964(昭和39)	リトグラフ、紙	54.1×38.0
7 板津 邦夫	彫刻のある風景 18, XI, '64	1964(昭和39)	リトグラフ、紙	54.2×38.2

8	板津 邦夫	風の家	1995(平成7)	ナラ、アクリル絵具	197.0×58.5×43.5
9	根守 悦夫	女の顔	1964(昭和39)	リトグラフ、紙	35.0×31.0
10	根守 悦夫	Kotan Koro Kamui	1972(昭和47)	シルクスクリーン、紙	41.0×29.8
11	根守 悦夫	秘史	1973(昭和48)	油彩、キャンバス	91.0×116.5
12	神田 一明	窓のある室内	1981(昭和56)	油彩、キャンバス	187.0×227.0
13	本庄 康伸	沈黙Ⅱ	1993(平成5)	膠テンペラ、パネル	162.0×162.0
14	本庄 康伸	邂逅(雪降る前)	2010(平成22)	混合技法、パネル	162.0×162.0
15	寺田 榮	石走る(いはばしる)	2003(平成15)	白御影石	60.0×37.0×30.0
16	大石 朋生	幻	2013(平成25)	紙本彩色	220.0×170.0
17	大石 朋生	浮島	2018(平成30)	紙本彩色	105.0×105.0
18	岩永 啓司	連繋態	2021(令和3)	シラカバ、着色	100.0×170.0×70.0
19	岩永 啓司	黒い境界	2017(平成29)	キハダ、カツラ、着色	180.0×70.0×90.0
20	八重樫 良二	積み木の塔	1989(平成元)	サクラ	24.0×39.2×42.0
21	八重樫 良二	木製オブジェ・ルール	2017(平成29)	セン	8.1×72.3×9.8

※13, 14はアートホール東洲館蔵、16~21は作家蔵、他は当館蔵

## 旭川現代アート事始め 出品目録

1	一ノ戸 ヨシノリ	朝の食卓	1971(昭和46)	人形、コーヒーカップ、鏡、テーブル他	119.9×216.5×104.3
2	一ノ戸 ヨシノリ	WATER WORK E-851	1985(昭和60)	写真、キャンバス(2点組)	右: 180.0×323.0 左: 180.0×359.5
3	荒井 善則	Traces of the Tape	1990(平成2)	布、墨、朱墨、モノタイプ(10点組)	各90.0×90.0(全10点) 展示サイズ: 190.0×490.0
4	下村 朔朗	「アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム」ポスター	1976(昭和51)	印刷、紙	72.0×51.5
5	下村 朔朗	「美術館2ndロフト」ポスター(セカンドロフト・コミュニケーション)	1979(昭和54)	印刷、紙	72.5×53.0
6	下村 朔朗	「TRANSMISSION ART NOW 発信」ポスター	1981(昭和56)	印刷、紙	102.5×72.5
7	真鍋 庵	「TRANSMISSION ART NOW 発信」記録動画(展示・作品編)	1981(昭和56)	動画/38分24秒	
8	真鍋 庵	「ネットワーク・フットワーク・アートワーク CIRCULATION '85」ポスター	1985(昭和60)	印刷、紙	102.5×72.5
9	真鍋 庵	「同時多発的美術現象化 CIRCULATION '85」ポスター	1985(昭和60)	印刷、紙	102.5×72.5
10	真鍋 庵	「CIRCULATION '85」記録動画(旭川編)	1985(昭和60)	動画 /34分08秒	

11	一ノ戸 ヨシノリ	大地のあかり HOMAGE TO SNOW 「第2回あさひかわ雪あかり'92」 のためのドローイング	1992(平成4)	鉛筆、水彩、紙、写真	23.8×42.3
12	一ノ戸 ヨシノリ	イメルミントラ 「第7回あさひかわ雪あかり'97」 のためのドローイング	1997(平成9)	コピー、水彩、クレヨン、紙	29.8×41.8
13	一ノ戸 ヨシノリ	マタパ伝説の森 「第12回あさひかわ雪あかり2002」 のためのドローイング	2002(平成14)	コピー、水彩、クレヨン、紙	29.7×41.8
14	一ノ戸 ヨシノリ	イメルの森 「第10回あさひかわ雪あかり2000」 のためのドローイング	2000(平成12)	鉛筆、水彩、紙	38.0×59.6
15	一ノ戸 ヨシノリ	カムイミントラ2006—神々の遊ぶ庭 「第16回あさひかわ雪あかり2006」 のためのドローイング	2006(平成18)	カラーコピー、水彩、紙	35.3×51.5
16	藤井 忠行	椅子	1983(昭和58)	クルミ、エンジュ	115.5×50.0×142.0
17	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (2-3頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
18	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (カバー、表紙、4-5頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
19	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (6-7頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
20	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (8-9頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
21	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (10-11頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
22	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (12-13頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
23	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (18-19頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
24	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (20-21頁)	2008(平成20)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.5
25	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画 (26-27頁)	2008(平成21)	グワッシュ、クレヨン、紙	26.5×70.6
26	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、布	58.5×88.5
27	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、紙	58.5×88.5
28	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、鏡	58.5×88.5
29	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、アルミ板 (腐蝕)	58.5×88.5
30	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、砂鉄、 塩化ビニール板	58.5×88.5

31	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、 パステル、 塩化ビニール板	58.5×88.5
32	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、 ベニヤ板	58.5×88.5
33	末武 英一	標本箱シリーズ「オオクワガタ」	1986(昭和61)	シルクスクリーン、 砂鉄、 透明アクリル板	58.5×88.5

## 資料

「アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム」冊子 (発行：アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム実 行委員)	1976(昭和51)	印刷、紙
「アーティスト・ユニオン北海道シンポジウム」出品 参加目録	1976(昭和51)	印刷、紙
『美術旭川』創刊号 (発行人：平間フミ子／1979年1月1日)	1979(昭和54)	印刷、紙
『美術旭川』No. 2 (発行人：平間フミ子／1979年3月1日)	1979(昭和54)	印刷、紙
『美術旭川』No. 3 (発行人：平間フミ子／1979年5月1日)	1979(昭和54)	印刷、紙
『表現ロフト 美術館2ndロフトの記録1979/4- 1980/10』 (発行：美術館2ndロフト運営委員会／1981年7月)	1981(昭和56)	印刷、紙
『CIRCULATION '85 北海道広域現代美術展・資料』 (発行：CIRCULATION '85実行委員会／1996年5月1日)	1996(平成8)	印刷、紙
「CIRCULATION '85」リーフレット	1985(昭和60)	印刷、紙

※出品作品、資料はすべて当館蔵

※寸法は平面作品が縦×横、立体作品が高さ×幅×奥行、または高さ×径

## 5 教育普及事業

項目毎に、日時または期日、内容、講師、会場、聴講者または参加者数を記した。その他の場合は特記した。

### (1) ワークショップ等

#### ■工作アトリエ

休業期間中の小学生と保護者を対象に工作の機会を設け、子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、創作の楽しさを体験してもらった。



夏休み工作アトリエ 2022「とっておき♪ミニBOOK『旭川の美術 100年』」

8月3日(水)～8月31日(水) 午前9時30分～午後5時

会場：ロビー

参加人数：計 228名

(自由参加、参加無料)

冬のウッディ★工作アトリエ 2023「親子で木のおもちゃづくり」

講師：佐貫 友紀氏 (森の美術館「木夢」学芸員・木工指導員)、当館学芸員

会場：講堂、第1展示室、第2展示室 (事前募集制)

参加料：1組 1,200円 (材料費、観覧料、保険代等を含む)



1月14日(土) 午後2時～4時

参加人数：18名



1月15日(日) 午前10時～12時

参加人数：15名

#### ■展覧会関連事業

以下の事業を展覧会に関連して行った。詳細は各頁を参照。



講演会等 (p.12, 24, 35, 36, 46)



ギャラリートーク (p.13, 23, 24, 46)

## (2) 連携事業

### ●学校教育との連携事業

小学校、中学校、大学との連携により、学校教育における美術館の活用促進を図った。

### ■オンラインアート教室

出張アート教室に代わり、令和4年度に試行された。美術作品にふれる機会の少ない地域等における鑑賞機会の拡充や、子どもたちへの美術の理解促進を図るため、学芸員が主に Zoom によるオンラインで児童・生徒を対象に、わかりやすく鑑賞の手ほどきや美術作品に関する講義を行うことを目的とした。

10月21日(金)

実施校：遠軽市立白滝中学校(1～3年生)

講師：津田 しおり(学芸員)

テーマ：「旭美探訪」

作品：デイヴィッド・ナッシュ《十字形に焦がした卵》

参加人数：12名



11月2日(水)

実施校：稚内市立天北中学校(1～3年生)

講師：藤原 乃里子(主任学芸員)

テーマ：「旭美探訪」

作品：「北斎展」作品数点、デイヴィッド・ナッシュ《十字形に焦がした卵》

参加人数：13名



12月22日(木)

実施校：旭川市立末広北小学校(6年生)

講師：佐藤 由美加(学芸課長)

テーマ：「旭美探訪」

作品：「モダンの芸術」展作品数点、デイヴィッド・ナッシュ《十字形に焦がした卵》

参加人数：21名

### ■教員のための鑑賞研修

上川管内の小中高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に、学芸員による解説と鑑賞の機会を設け、児童生徒の鑑賞の推奨に役立ててもらうことをねらった。例年特別展毎に実施しており令和4年度は4回行った。詳細は各展覧会関連事業の項目を参照。(事前募集制、参加無料)

参加人数：計31名



#### ■旭川地域連携アートプロジェクト

例年、北海道教育大学旭川校（美術教育）・上川管内と旭川の中学校美術部顧問の教員・美術館（旭川市彫刻美術館、当館）の連携により行っているプロジェクト。令和4年度は「美術館に行こう！」展で鑑賞プログラムを実施した。

参加人数：計143名

主催：北海道立旭川美術館、上川旭川中学校美術部連携協議会、北海道教育大学旭川校、旭川地域連携アートプロジェクト

#### ■キャンパス・パートナーシップ

道立美術館・博物館は大学等の教育機関と連携して芸術文化について学ぶ機会を拡充する「北海道立美術館・博物館キャンパス・パートナーシップ」制度を設けている。

利用者数：1名（北海道医学技術専門学校）

#### ■親子芸術鑑賞会、体験会

上川教育局と共催で、子供たちと保護者に向けた講話や木版画体験のワークショップ、学芸員の作品解説、展覧会の鑑賞を行った。

10月16日（日）

親子芸術鑑賞会、体験会「ココロイロイロ」

講師：高橋 由貴子氏（高橋公房代表）、藤原 乃里子（主任学芸員）

参加人数：24名

### （3）ボランティア活動

1982（昭和57）年の開館時から、ボランティア常磐会によるボランティア活動が行われている。内容は喫茶「常磐の樹」ならびにミュージアムショップ（常設、特設）の運営。活動員数は約50名。

### （4）協力事業

#### ●小中学校の総合的な学習への対応

小中学校における総合的な学習のために美術館を活用したいという要請に対応した。

#### ■職場体験等

美術館に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持つことにつながるよう施設見学の受入を行った。

2月21日（火）

実施校：旭川市立新町小学校（3年生）

内容：美術館についての説明及び展示観覧

参加人数：15名

## 6 美術作品の収集

### ■令和4年度の作品収集について

当館は、地域の特徴をふまえたコレクションづくりを目指し、「道北の美術」と「木の造形」の作品収集を大きな柱としている。本年度は開館40周年にあわせて5年振りに購入予算の措置がなされた。宇治市を拠点に活躍する人間国宝・村山明による刳物と拭漆の伝統技法で仕上げた作品2点と、木工家の三代目である人間国宝・須田賢司による精緻な指物技法にモダンな意匠を採り入れた作品1点、そして須田賢司の父であり、戦後日本の工芸界復興に貢献した須田桑翠が貴重な御蔵島桑を部材として用いた作品1点、計4点の購入が実現した。あわせて須田桑翠、須田賢司それぞれの作品各2点が須田賢司氏とコレクター、また当館ボランティア常磐会から寄贈され、「木の造形」のなかでも伝統木工芸作品コレクションの充実を図ることができた。「道北の美術」では、戦後の旭川美術界で活躍した2名の画家、北島吉光と村山陽一それぞれの油彩各1点を、北島吉光の子息・滋氏からの寄贈により収蔵した。「道北の美術」と「木の造形」の両方に関わる作品としては、〈君の椅子 2022〉が「君の椅子」プロジェクトより寄贈された。2006（平成18）年に始まった同プロジェクトより、当館ではこれまで〈君の椅子〉全点を受贈いただいております、本作で18点目の収蔵となった。本年度の購入と受贈により、総作品数は757点、資料126点となった。

### ■令和4年度作品収集状況

#### 作品

分野	令和3年度末 作品収蔵数	令和4年度作品収集数			作品総数
		購入	受贈	合計	
油彩	173点(23.1%)	0	2	2	175点(23.1%)
日本画	18 (2.4%)	0	0	0	18 (2.4%)
水彩・素描	174 (23.3%)	0	0	0	174 (23.0%)
書	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)
版画	141 (18.9%)	0	0	0	141 (18.6%)
彫塑	143 (19.2%)	0	0	0	143 (18.9%)
工芸	95 (12.7%)	4	5	9	104 (13.7%)
写真	2 (0.3%)	0	0	0	2 (0.3%)
デザイン	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)
合計	746 (100%)	4	7	11	757 (100%)

注) ( ) 内の数字は、小数点第二位まで求め、四捨五入して記載した。

#### 資料作品

分野	令和3年度末 資料作品収蔵数	令和4年度資料作品収集数			資料作品総数
		購入	受贈	合計	
油彩	1	0	0	0	1
日本画	0	0	0	0	0
水彩・素描	111	0	0	0	111
書	2	0	0	0	2
版画	4	0	0	0	4
彫塑	1	0	0	0	1
工芸	1	0	0	0	1
写真	0	0	0	0	0
デザイン	2	0	0	0	2
その他	4	0	0	0	4
合計	126	0	0	0	126

## ■令和4年度作品収集一覧

### 購入作品一覧

所蔵作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
2022008	工芸	須田 賢司	栃黒柿拭漆箱「籬」	1995 (平成7)	栃、黒柿、拭漆、銀、 組紐	幅35.5×奥行き 15.4×高さ9.9
2022009	工芸	須田 桑翠	桐八角筥	1972 (昭和47)	桐、桑	幅30.5×奥行き 30.5×高さ9.0
2022010	工芸	村山 明	樺拭漆水盤	2017 (平成29)	樺、拭漆	幅64.0×奥行き 43.0×高さ7.0
2022011	工芸	村山 明	樺緋拭漆舟形盛器	2017 (平成29)	樺、拭漆	幅62.0×奥行き 32.0×高さ3.3

### 受贈作品一覧

所蔵作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
2022001	油彩	北島 吉光	教会堂のある街	1955～59 (昭和30～ 34)	油彩、キャンバス	縦61.0×横50.3
2022002	油彩	村山 陽一	はじまり	1957 (昭和32)	油彩、キャンバス	縦25.0×横18.0
2022003	工芸	須田 賢司	献保梨造嵌装箱	1996 (平成8)	献保梨、拭漆、楓、 桑、象牙、銀、組紐	幅31.7×奥行き 11.6×高さ18.8
2022004	工芸	須田 賢司	楓嵌装箱一双「二都物語」	2010 (平成22)	楓、拭漆、カヒカテ ア、ジリコテ、グラナ ディア、白蝶貝、パウ ア貝	幅9.0×奥行き 27.5×高さ12.5
2022005	工芸	須田 桑翠	菱文桑四方盆	1956 (昭和31)	桑、夜光貝	幅27.5×奥行き 27.5×高さ4.5
2022006	工芸	須田 桑翠	黒柿短冊筥	1977 (昭和52)	黒柿、桑	幅39.0×奥行き 9.2×高さ11.5
2022007	工芸	デザイン：坂本茂 制作：アートクラフ ト・パウ工房、匠工芸	君の椅子 2022	2022 (令和4)	ミズナラ	幅26.9×奥行き 26.5×高さ41.3

## 作品目録

### 凡例

1. この目録には、令和4年4月1日から令和5年3月31日までに、北海道立旭川美術館に収蔵された作品を収録した。
2. 各作品は作者名によって次の通り分類した。  
道北の美術／木の造形
3. 作者名は、各分類ごとに50音順に配列した。同一作家の作品が2点以上ある場合は、制作年順に配列した。
4. 各作品のデータ記載事項と順序は次の通りである。  
作家名、同英文、生没年、作品名、同英文、制作年、技法・材質、寸法、収集の経緯、所蔵番号。
5. データ記載事項のうち、該当事項のないものは表記を省略した。
6. 寸法は、センチメートルを単位とし、立体作品は高さ×幅×奥行、平面作品は縦×横の順に記載した。

## 道北の美術 Art of Northern Hokkaido

---



北島 吉光  
KITAJIMA Yoshimitsu  
1916(大正5)～2000(平成12)

教会堂のある街  
Town with a Church

1952～1955(昭和27～30)  
油彩、キャンバス  
61.0×50.3  
北島 滋氏より受贈  
2022001



村山 陽一  
MURAYAMA Youichi  
1926(昭和1)～1961(昭和36)

はじまり  
Beginning

1957(昭和32)  
油彩、キャンバス  
18.0×25.0  
北島 滋氏より受贈  
2022002



デザイン：坂本 茂  
制作：アートクラフト・バウ工房、匠芸  
Design: SAKAMOTO Shigeru,  
Made by Art craft bau Studio,  
TAKUMIKOUGEI Co., Ltd

君の椅子 2022  
A Chair Just for You 2022: On-going Project to  
Make Chairs for Newborns

2022(令和4)  
ミズナラ  
41.3×26.9×26.5  
君の椅子プロジェクト代表 磯田 憲一氏より受贈  
2022007



須田 賢司  
SUDA Kenji  
1954(昭和29)～

栃黒柿拭漆箱「籬」  
Box of Japanese Horse Chestnut with Black  
Persimmon Decoration, Wiped Urushi Lacquer,  
"Magaki (Brushwood Fence)"

1995(平成7)  
栃、黒柿、拭漆、銀、組紐  
9.9×35.5×15.4  
購入  
2022008



須田 賢司  
SUDA Kenji  
1954(昭和29)～

献保梨造嵌装箱  
Box of Japanese Raisin Wood with Inlay  
Decoration

1996(平成8)  
献保梨、拭漆、楓、桑、象牙、銀、組紐  
18.8×31.7×11.6  
石井 本子氏より受贈  
2022003



須田 賢司  
SUDA Kenji  
1954(昭和29)～

楓嵌装箱一双「二都物語」  
Pair of Sycamore Maple Wood Boxes with Inlay  
Decoration, "Nito Monogatari (Tale of Two  
Cities)"

2010(平成22)  
楓、拭漆、カヒカテア、ジリコテ、グラナディラ、白蝶貝、  
パウア貝  
9.0×27.5×12.5  
北海道立旭川美術館ボランティア常磐会より受贈  
2022004



須田 桑翠  
SUDA Sosui  
1910(明治43)~1979(昭和54)

菱文桑四方盆  
Square Tray of Mulberry with Rhombus Motifs

1956(昭和31)  
桑、夜光貝  
4.5×27.5×27.5  
須田 賢司氏より受贈  
2022005



須田 桑翠  
SUDA Sosui  
1910(明治43)~1979(昭和54)

桐八角筥  
Octagonal Box of Paulownia

1972(昭和47)  
桐、桑  
9.0×30.5×30.5  
購入  
2022009



須田 桑翠  
SUDA Sosui  
1910(明治43)~1979(昭和54)

黒柿短冊筥  
*Tanzaku* (Poem Card) Box of Black Persimmon

1977(昭和52)  
黒柿、桑  
11.5×39.0×9.2  
須田 賢司氏より受贈  
2022006



村山 明  
MURAYAMA Akira  
1944(昭和19)~

櫨拭漆水盤  
Basin of Zelkova, Wiped *Urushi* Lacquer

2017(平成29)  
櫨、拭漆  
7.0×64.0×43.0  
購入  
2022010



村山 明  
MURAYAMA Akira  
1944(昭和19)～

櫟緋拭漆舟形盛器  
Vessel of Zelkova, Wiped Scarlet-Colored  
*Urushi* Lacquer

2017(平成29)  
櫟、拭漆  
3.3×62.0×32.0  
購入  
2022011

## 7 美術作品の修復・貸出

### (1) 美術作品の修復

令和4年度は実施なし。

### (2) 美術作品の貸出

貸出先、作家・作品名、貸出期間、目的（会場）の順に記載した。

#### ■北海道立近代美術館

砂澤 ビッキ 7点

《ニツネカムイ》、《集吸呼 A》、《TOH》、《鳥の巣(椅子)》、《四季の面》、《風の王と王妃》、《風の王と王妃》

令和4年9月6日（火）～令和5年1月30日（月）

「砂澤ビッキ 終わりのない迷宮」展出品（北海道立近代美術館）

会期：令和4年11月22日（土）～令和5年1月22日（日）



## 8 資料・情報

### 図書資料の収集

内訳	分類	令和3年度末	令和4年度	計
図書	A00	117	0	117
	A01	60	0	60
	A02	366	0	366
	A03	190	0	190
	A04	64	1 (1)	65
	A05	152	2 (1)	154
	A06	269	0	269
	A07	43	0	43
	A08	1,424	4 (4)	1,428
	A09	99	0	99
	A10	343	0	343
	A20	1,393	0	1,393
	A30	233	0	233
	A40	178	0	178
	A50	359	0	359
	A60	519	0	519
	000～900	720	0	720
	E	483	0	483
	CD	45	0	45
	DVD	17	0	17
VHS	4	0	4	
小計		7,078	7 (6)	7,085
資料[図録・古書雑誌等]		27,733	434 (401)	28,167
合計		34,811	441 (407)	35,252

\* ( ) 内は寄贈図書

### 図書分類表

分類記号	内容
A00	美術一般
A01	美術理論
A02	美術史
A03	書誌・辞典・便覧・名簿
A04	論文・講演集・美術評論
A05	年鑑
A06	美術館博物館・博物館学・保存修復
A07	美術教育
A08	美術全般の全集・叢書
A09	文化財・国宝
A10	彫刻・立体一般、日本彫刻・立体、東洋彫刻・立体、西洋彫刻・立体、彫刻・立体の材料・技法
A20	絵画一般、日本絵画、東洋絵画、西洋絵画、絵画の材料・技法、書蹟
A30	版画一般、日本版画、東洋版画、西洋版画、版画の材料・技法
A40	映像一般、映画、写真、映像機械・技法
A50	工芸一般、陶磁、ガラス、染織、木・漆工、金工(刀剣・鉄砲)、その他の工芸
A60	デザイン一般、グラフィックデザイン、インテリアデザイン、建築、その他のデザイン
000～900	一般図書(総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術・工学・工業、産業、芸術、言語、文学)
E	絵本
CD	CD-ROM
DVD	DVD
VHS	VHS

## 図書閲覧・刊行物

### ■図書閲覧

ロビーの図書コーナーに、開催中の展覧会に関連した書籍や図録等を配架し、閲覧に供した。その他の図書の閲覧希望や美術に関する質問には、随時対応した。

### ■刊行物

[令和5年度ミュージアムカレンダー（事業案内）]

縦 21.5×横 37.0 cm 四つ折り

OK マットコート 100 110 kg

両面カラー4色 50,000部 令和5年3月発行

デザイン：株式会社 20 パーセント

製 作：株式会社総北海



[令和3年度年報]

\*当館ホームページにおいて公開



[旭川美術館だより『氷華』No. 65]

A4 縦 12 頁（カラー12 頁） ミューマット 90 kg

1,200 部 令和5年3月発行

製 作：株式会社総北海

内 容：

展覧会報告「旭川の美術 100 年」－開館 40 周年によせて／佐藤 由美加（学芸課長）

講演会抄録「彫刻の街・旭川－その歩みと現況について」／佐藤 由美加（学芸課長）

展覧会報告「こころ育む学び舎－北海道教育大学旭川校－」／津田 しおり（学芸員）

展覧会報告「旭川現代アート事始め」／藤原 乃里子（主任学芸員）

木の作家を訪ねて 26 村山明氏／佐藤 由美加（学芸課長）

収蔵品から 須田賢司《楓嵌装箱一双「二都物語」》／佐藤 由美加（学芸課長）

\*上記はすべて当館編集・発行。

\*展覧会関係の広報印刷物、図録等については、各展覧会の頁を参照。

### ■特別観覧

当館所蔵の作品等や写真資料について、印刷物への掲載やインターネット上の公開を目的とした写真や画像データの借用希望、所蔵作品の熟覧、所蔵品展の会場撮影があった場合に、特別観覧として対応した。令和4年度は1件の特別観覧があった。

## ■ データベース

令和4年度までの収蔵作品ならびに資料作品について、データベース化を完了した。

## ■ インターネット上の情報提供

当館ホームページおよび X（旧ツイッター）において、展覧会や教育普及事業等に関する情報を随時更新しながら提供した。令和3年6月からは新ホームページ（<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abi>）に移行。

## 9 利用者数一覧等

### (1) 令和4年度 観覧者数一覧

展覧会名	開催要項 (開催日数)	観覧者数 (一日平均)	有料									無料
			個人①				団体②/前売③				小計	免除 招待
			一般	高大生	小中生	計	一般	高大生	小中生	計	①+②+③	
特別展	美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方 ( 56 日)	19,071 ( 341 人)	7,607	495	52	8,154	4,291	403	226	4,920	13,074	5,997
	開館40周年記念 旭川の美術100年 第一部 ( 50 日)	2,443 ( 49 人)	936	69	8	1,013	358	12	50	420	1,433	1,010
	世界が絶賛した浮世絵師 北斎展—師とその弟子たち— ( 63 日)	19,299 ( 306 人)	9,337	266	/	9,603	5,352	176	/	5,528	15,131	4,168
	開館40周年記念 モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川 ( 69 日)	3,127 ( 45 人)	1,400	155	12	1,567	486	21	63	570	2,137	990
	小計 ( 238 日)	43,940 ( 185 人)	19,280	985	72	20,337	10,487	612	339	11,438	31,775	12,165
所蔵品展	開館40周年記念 「木の造形」クロニクル ( 56 日)	4,287 ( 77 人)	1,338	102	/	1,440	99	34	/	133	1,573	2,714
	開館40周年記念 旭川の美術100年 第二部 ( 50 日)	2,194 ( 44 人)	655	66	/	721	102	9	/	111	832	1,362
	開館40周年記念 こころ育む学び舎—北海道教育大学旭川校— ( 63 日)	5,230 ( 83 人)	786	354	/	1,140	200	11	/	211	1,351	3,879
	開館40周年記念 旭川現代アート事始め ( 69 日)	2,067 ( 30 人)	830	101	/	931	126	10	/	136	1,067	1,000
	小計 ( 238 日)	13,778 ( 58 人)	3,609	623	/	4,232	527	64	/	591	4,823	8,955
合計	8 回 ( 238 日)	57,718 ( 243 人)	22,889	1,608	72	24,569	11,014	676	339	12,029	36,598	21,120

※ 観覧者数（内訳）のうち、斜線欄の人数は、「無料（免除・招待）」に含む（内数）

## (2) 令和4年度 教育普及事業実施状況・利用者数一覧

### ■教育普及事業実施状況

#### ◆講演会等

展覧会名	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
旭川の美術100年	「旭川の作家たちー地域美術の魅力」	7月9日 (土)	講堂	新明 英仁氏 (前市立小樽美術館長)	22
	「彫刻の街・旭川ーその歩みと現況について」	8月27日 (土)	講堂	藤井 忠行氏 (彫刻家)	32
北斎展	「北斎 波瀾万丈90年の生涯」	10月8日 (土)	講堂	中右 瑛氏 (国際浮世絵学会常任理事)	40
こころ育む学び舎ー北海道教育大学旭川校ー	「北海道教育大学旭川校 美術科の歩みとその学び舎」	10月22日 (土)	講堂	八重樫 良二氏 (北海道教育大学旭川校特任教授)	27
モダンの芸術 100年前のヨーロッパ、日本、旭川	「工芸・木工芸 黒田辰秋から現代まで」	1月21日 (土)	講堂	諸山 正則氏 (工芸史家・前東京国立近代美術館主任研究員)	30
	「カクテル都市 バリの狂宴」	2月4日 (土)	講堂	柴 勤氏 (前小川原脩記念美術館長)	29
小計					180

#### ◆解説等

関連展覧会	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
美術館に行こう！	30分でわかる！学芸員の見どころ解説	5月21日 (土)	講堂	津田 しおり (学芸員)	午前 18
		6月4日 (土)			午後 17
		6月5日 (日)			午後 14
旭川の美術100年	ギャラリートーク①	7月24日 (日)	第1展示室	佐藤 由美加 (学芸課長)	5
	ギャラリートーク②	7月30日 (土)	第1展示室、第2展示室	山腋 雄一氏 (中原梯二郎記念旭川市彫刻美術館長)	14
	30分でわかる！学芸員の見どころ解説	7月22日 (土)	講堂	佐藤 由美加 (学芸課長)	5
		8月5日 (土)			14
北斎展	ギャラリートーク	10月7日 (金)	講堂	中右 瑛氏 (本展監修者・国際浮世絵学会常任理事)	17
		10月14日 (金)			21
		10月27日 (木)			第1展示室
	11月10日 (木)	16			
	30分でわかる！学芸員の見どころ解説	9月23日 (金・祝)	講堂	藤原 乃里子 (主任学芸員)	23
		10月15日 (金)			23
		11月4日 (土)			38
11月26日 (金)		24			

こころ育む学び舎ー北海道教育大学旭川校ー	ギャラリートーク①	11月5日 (土)	第2展示室	八重樫 良二氏(北海道教育大学旭川校特任教授)、大石 朋生氏(北海道教育大学旭川校教授)、岩永 啓司氏(北海道教育大学旭川校准教授)	20
	ギャラリートーク②	11月6日 (日)			20
モダンの芸術	30分でわかる!学芸員の見どころ解説	1月7日 (土)	講堂	津田 しおり(学芸員)	12
		2月18日 (土)			10

小計 329

## ◆オリエンテーション

事業名	内容	開催日	会場	講師名	人数等
団体オリエンテーション	予約団体への展覧会解説	特別展等の開催期間	講堂	当館学芸員	24件 425人

小計 425

## ◆ワークショップ等

事業名	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
ワークショップ	こども工作ワークショップ 「ゆらゆら遊ぼう!ヤジロペー作り」	4月23日 (土)	講堂	八重樫 良二氏 (北海道教育大学旭川校特任教授)	13
	こども工作ワークショップ 「ちびっこデザイナーのこだわり絵本バッグ〜色の世界〜」	5月29日 (日)	講堂	椎名 澄子氏 (旭川大学短期大学部幼児教育学科教授)	61
		4月24日 (日)	講堂		27
		4月29日 (金・祝)	講堂		28
	図書館×美術館「絵本のよみかかせ会」			旭川市図書館子ども読書活動推進ボランティアネットワーク	29
		5月26日 (木)	講堂		29
		6月21日 (火)	講堂		21
夏休み工作アトリエ	夏休み工作アトリエ2022 「とっておき♪ミニBOOK『旭川の美術100年』」	8月3日 (水) ～16日 (火)	ロビー	※自由参加で講師なし	228
親子芸術鑑賞会、体験会	「ココロイロイロ」	10月16日 (日)	講堂 第1展示室	高橋 由貴子氏 (高橋公房代表)、 藤原 乃里子 (主任学芸員)	24
冬のウッディ★工作アトリエ2023	「親子で木のおもちゃづくり」 うさとらカラコロおにぎり	1月14日 (土)	講堂	佐貫 友紀氏 (森の美術館「木夢」木工指導員)、津田 しおり (学芸員)	18
		1月15日 (日)	第1展示室		15

小計 464

## ◆特別イベント

関連展覧会	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
モダンの芸術	道銀文化財団 Art Ensemble #17 北海道立旭川美術館開館40周年記念コンサート「バラエティ豊かな打楽器が描く音の世界」	12月17日 (土)	講堂	石川 千華氏(マリンバ)、 白戸 達也氏(打楽器)	106

小計 106

## ◆学校教育との連携・協力事業

事業名等	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数等
教員のための鑑賞研修	「美術館に行こう！」	6月18日（土）	講堂	津田 しおり（学芸員）	8
	「旭川の美術100年」	7月24日（日）		佐藤 由美加（学芸課長）	2
	「北斎展」	10月1日（土）		藤原 乃里子（主任学芸員）	20
	「モダンの芸術」	1月7日（土）		津田 しおり（学芸員）	1
オンラインアート教室	「旭美探訪」	10月21日（金）	ロビー、第2 展示室	津田 しおり（学芸員）	12
		11月2日（水）		藤原 乃里子（主任学芸員）	13
		12月22日（木）		佐藤 由美加（学芸課長）	21
旭川地域連携アートプロジェクト	「美術館に行こう！」及び 「『木の造形』クロニクル」	5月28日（土）	第1展示室	吉野 法行氏（東川町立東川中学校 教諭）他	50
		6月11日（土）			43
		6月12日（日）			50
キャンパス・パートナーシップ	道立美術館・博物館が大学 等の教育機関と連携して芸 術文化について学ぶ機会を 拡充する。	通年		北海道医学技術専門学校	1

小計 234

## ■事業利用者数一覧

事業名	回数	利用者数
講演会等	6	180
解説等	19	329
オリエンテーション	24	425
ワークショップ等	10	464
特別イベント	1	106
学校連携・協力事業	11	234
合計	71	1,738

(3) 令和4年度 予算・名簿

【令和4年度予算額】

(単位:千円)

教育総務費		434
	美術館協議会運営費	320
	事務局運営費	114
社会教育費		135,101
	展覧会事業費	18,198
	直接支払分	12,898
	負担金	5,300
	教育普及活動費	170
	調査研究資料収集費	289
	親子ふれあい芸術体験事業費	91
	維持運営費	115,753
	事業運営費	600
合計		135,535

【北海道立旭川美術館協議会委員名簿】(令和5年3月31日現在)

区分	氏名	性別	所属団体等(任用時)	新任・再任の別
学校教育関係者	草野 孝 治	男	美深町教育委員会	新任
	石前 聖 香	女	旭川市立日章小学校	再任
	◎伊東 義 晃	男	上川教育研修センター	新任
社会教育関係者	両瀬 涉	男	上川管内社会教育委員連絡協議会	再任
	津辻 としえ	女	旭川美術館ボランティア常磐会	新任
	千葉 幸 恵	女	朔北美術協会	再任
	彦野 優 佳	女	画家	再任
学識経験者	○大石 朋 生	男	北海道教育大学	再任
	村中 一 徳	男	比布町	再任
家庭教育向上活動者	本間 公 浩	男	旭川市PTA連合会	再任
公募	坂井 寿 香	女	公募	新任
	橋場 麻智子	女	公募	新任

◎会長 ○副会長 任期:令和4年6月10日から令和6年6月9日まで

【北海道立旭川美術館職員名簿】(令和4年4月1日現在)

職名	氏名	発令年月日
館長(非常勤)	梶 浦 仁	平成30年4月1日
副館長兼総務課長	居 弥 口 靖 博	令和4年4月1日
主査	目 黒 真沙美	令和3年4月1日
主事	藤 原 航	令和4年4月1日
学芸課長	佐 藤 由美加	平成30年4月1日
主任学芸員	藤 原 乃里子	令和4年4月1日
学芸員	津 田 しおり	令和4年4月1日
主事(非常勤)	野 澤 陽 子	平成元年4月1日
主事(非常勤)	成 田 孝 子	平成4年11月1日
主事(非常勤)	佐 野 裕 美	平成10年4月1日
主事(非常勤)	上 野 由記子	平成12年4月1日



## (4) 沿革

1977(昭和52)年	7月 北海道発展計画(昭和53～62年)で公立美術館設置計画を策定
1979(昭和54)年	7月 道立地方美術館設置調査費を計上、道立地方美術館建設検討会発足 9月 道立地方美術館設置専門家会議発足 10月 北海道文化振興審議会に道立地方美術館設置構想を報告 11月 道立地方美術館設置基本構想を策定、第1号館を旭川市内定
1980(昭和55)年	3月 道立旭川美術館(仮称)設計、建築費を計上 6月 道立旭川美術館(仮称)建築基本設計完了 8月 道立旭川美術館(仮称)建築実施設計完了 10月 道立旭川美術館(仮称)工事着工(10/17)
1981(昭和56)年	12月 道立旭川美術館(仮称)工事竣工(12/7 2,558㎡)
1982(昭和57)年	4月 北海道立美術館条例の一部改正(4/5 条例第17号)により、「北海道立旭川美術館」を設置 初代館長 秋山操 7月 美術館落成式・開館記念式典、一般公開(7/24)
1987(昭和62)年	6月 2代目館長 磯部保 7月 開館5周年記念(7/24)
1990(平成2)年	3月 第2収蔵庫増築工事竣工(154㎡) 9月 観覧者50万人(9/20)
1992(平成4)年	4月 3代目館長 高橋洋 11月 常設展示室工事竣工(241㎡) 開館10周年記念式典、常設展示室落成式、常設展示室一般公開(11/13)
1996(平成8)年	4月 4代目館長 飯島修 所蔵品展及び常設展の小・中・高校生の無料化実施
1998(平成10)年	8月 観覧者100万人達成(8/12)
2000(平成12)年	4月 5代目館長 佐藤武
2002(平成14)年	10月 開館20周年記念式典(10/26)
2004(平成16)年	4月 所蔵品展及び常設展の高校生有料化、ただし土曜日並びにこどもの日及び文化の日は無料
2006(平成18)年	4月 6代目館長 金丸浩一 7月 観覧者150万人達成(7/28)
2012(平成24)年	4月 7代目館長 菅沼肇 11月 観覧者200万人達成(11/2) 開館30周年記念式典(11/16)
2018(平成30)年	4月 8代目館長 梶浦仁
2022(令和4)年	7月 開館40周年記念(7/24)

## (5) 建築設備概要

### ■建築概要

位 置	旭川市常磐公園内
基 本 設 計	田上+北海道日建、建設共同企業体
実 施 設 計	田上+北海道日建、建設共同企業体
工 事 施 工	伊藤・盛永共同企業体
総 工 費	12億6千162万9千円
工 期	起工 昭和55年10月17日 竣工 昭和56年12月7日
敷 地 面 積	4,320㎡
建 築 面 積	3,127㎡
構 造 概 要	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
仕 上	外装： 外装 磁器タイル (3丁掛) 張り 屋上 アスファルト防水のコンクリート コテ押工 内装： 床 磁器質タイル張り及び塩ビタイル張り (展示室 ゴムタイル張り) 壁 磁器タイル (ボード) 張り、軽量鉄骨下地、石コウ ボードクロス張り 天井 岩綿吸音板張り (AEP)

### ■設備概要

[電気設備]		[機械設備]	
受 変 電 設 備	受電電圧 6KV 変圧器容量 450KVA	空 気 調 和 設 備	展示室 夏 24℃±1℃ 55%±3% 冬 23℃±1℃ 55%±3%
発 電 設 備	ディーゼル機関 59PS 3,000rpm 発電機 43KVA 3相交流	収 蔵 庫 及 び 展 示 ケ ー ス 内	年間22℃±1℃ 55%±3%
常 設 展 示 室	ディーゼル機関 42PS 3,000rpm 発電機 30KVA 3相交流	吸 収 式 冷 凍 機	冷/302,720Kcal/hr 暖/252,840Kcal/hr
動 力 設 備	消防用電力 排煙機18.5KW1台 消化ポンプ7.5KW1台 一般用電力 合計233.1KW47台	チ ラ ー 冷 凍 機	冷房専用時 冷/104,500kcal/hr
常 設 展 示 室	消防用電力 排煙機7.5KW1台 一般用電力 合計286.35KW62台		冷暖房時 冷/91,200kcal/hr
電 灯 設 備	特別展示室 直管LEDランプ 高演色形 Ra95 4,000ケルビン ロビー 埋込形LEDダウンライト Ra85 3,000ケルビン 常設展示室 直管LEDランプ 高演色形 Ra95 4,000ケルビン 講堂 埋込形蛍光灯器具 200~400ルクス	チ ラ ー 冷 凍 機 冷 房 専 用 ( 空 冷 式 )	95,000~106,000kcal/hr
		低 圧 蒸 気 ボ イ ラ ー	643,000kcal/hr
		空 気 調 和 器	特別展示室 1系統 常設展示室 1系統 第1収蔵庫 1系統 第2収蔵庫 1系統 展示ケース 1系統 講堂 1系統 ロビーホール 1系統
電 話 設 備	釘電話機 自動式	給 水 設 備	市水道使用 (飲用水、雑用水、消火用水)
放 送 設 備	壁掛形防災アンプ 120W	消 火 設 備	屋内消火栓11カ所 ハロンガス消火設備 (特別展示室、常設展示室 展示ケース、第1収蔵庫、第1収蔵庫前室、第2 収蔵庫)
テ レ ビ 共 聴 設 備	U. Vアンテナ各1組、ユニット5個		
火 災 報 知 設 備	P1級複合盤 50回路		
視 聴 覚 設 備	16mm映写設備 一式 スライド映写設備 (テープ同調機構付) 一式 ビデオプロジェクター 一式 VTR編集設備 一式 スライドボックス 一式		

## (6) 利用案内

### ■開館時間

9:30～17:00(入場は 16:30 まで)

### ■休館日

月曜日(祝日または振替休日の時は開館、翌火曜日が休館)、年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間等。

### ■アクセス

徒 歩：JR 旭川駅から約 20 分。

バ ス：JR 旭川駅北側の 1 条通の 14 番バス停 (1 条 8 丁目) から、3・24・33 番のバスに乗車。もよりのバス停は「4 条 4 丁目」(3・33 番)、徒歩 5 分。または「8 条西 1 丁目」(24 番)、徒歩 3 分。また、「常磐公園前」を経由するバスも利用可能。バス停から徒歩 7 分。

タクシー：JR 旭川駅前から約 10 分。

駐 車 場：常磐公園駐車場(市営／無料／9:00～17:00)利用可能。台数に限りあり。